

# 広島城の今後の展示のあり方について

令和3年度第1回  
広島城の展示整備に関する懇談会

令和3年8月25日

# 目次

## <広島城展示基本計画策定の趣旨>

- 計画策定の経緯 . . . . . 2
- 計画策定の趣旨 . . . . . 4

## <広島城の現状・課題>

- 広島城の各エリアの概要 . . . . . 6
- 広島城の入館者数 . . . . . 7
- 三の丸エリア . . . . . 8
- 二の丸エリア . . . . . 11
- 本丸エリア . . . . . 15

## <現行の指定管理業務の概要>

- 広島城指定管理業務の概要 . . . . . 20
- ①収集保存事業 . . . . . 21
- ②調査研究事業 . . . . . 23
- ③展示事業 . . . . . 24
- ④教育普及事業 . . . . . 30
- ⑤交流サービス事業 . . . . . 31

## <三の丸施設整備を含む今後の管理運営>

- 広島城全体の管理運営の考え方 . . . . . 33
- 三の丸展示収蔵施設（仮称）等整備スケジュール . . . . . 34

## <本日御意見を頂きたい事項>

- 今後の方向性 . . . . . 36
- 事業全体の実施方針 . . . . . 37
- 展示事業の基本的な考え方 . . . . . 42
- 三の丸展示収蔵施設（仮称）の機能等 . . . . . 48

## <参考事例>

- 他都市の展示収蔵施設 . . . . . 52

# 広島城展示基本計画策定の趣旨

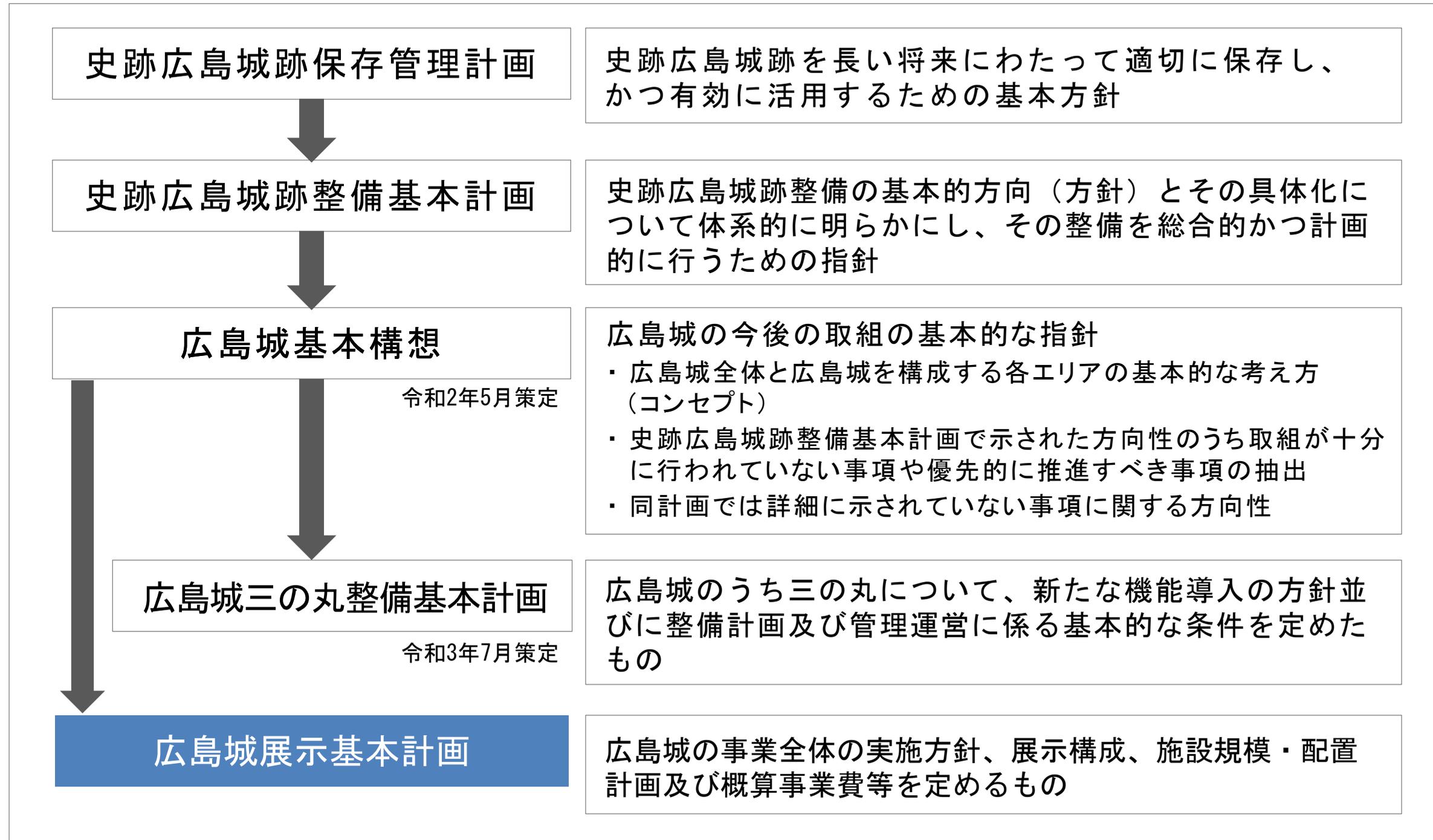
# 計画策定の経緯

## ○ 計画策定の経緯

- ・昭和63年4月、史跡広島城跡を適切に保存し、かつ有効に活用するための基本方針として、「**史跡広島城跡保存管理計画**」を策定。
- ・平成元年3月には、同計画を踏まえ、史跡広島城跡整備の基本的方向（方針）とその具体化について体系的に明らかにし、その整備を行うための指針として、「**史跡広島城跡整備基本計画**」を策定。
- ・令和2年3月に、「中央公園の今後の活用に係る基本方針」が策定され、今後、旧広島市民球場跡地のイベント広場やサッカースタジアムの開業が予定される中、中央公園の一角に位置する広島城の歴史・文化の発信拠点及び観光拠点としての魅力の向上を図り、都心の回遊性の向上を図るため、令和2年5月、今後の取組の基本的な指針として、「**広島城基本構想**」を策定。
- ・令和3年7月には、「**広島城への来訪者のおもてなし拠点**」を目指すとしている**広島城三の丸**について、新たな機能導入の方針等を定める「**広島城三の丸整備基本計画**」を策定。導入機能のうち、「展示収蔵施設」については、機能や規模等の詳細を別途策定する広島城全体の展示基本計画において決定することとしている。

# 計画策定の経緯

## ○ 各計画の関係



# 計画策定の趣旨

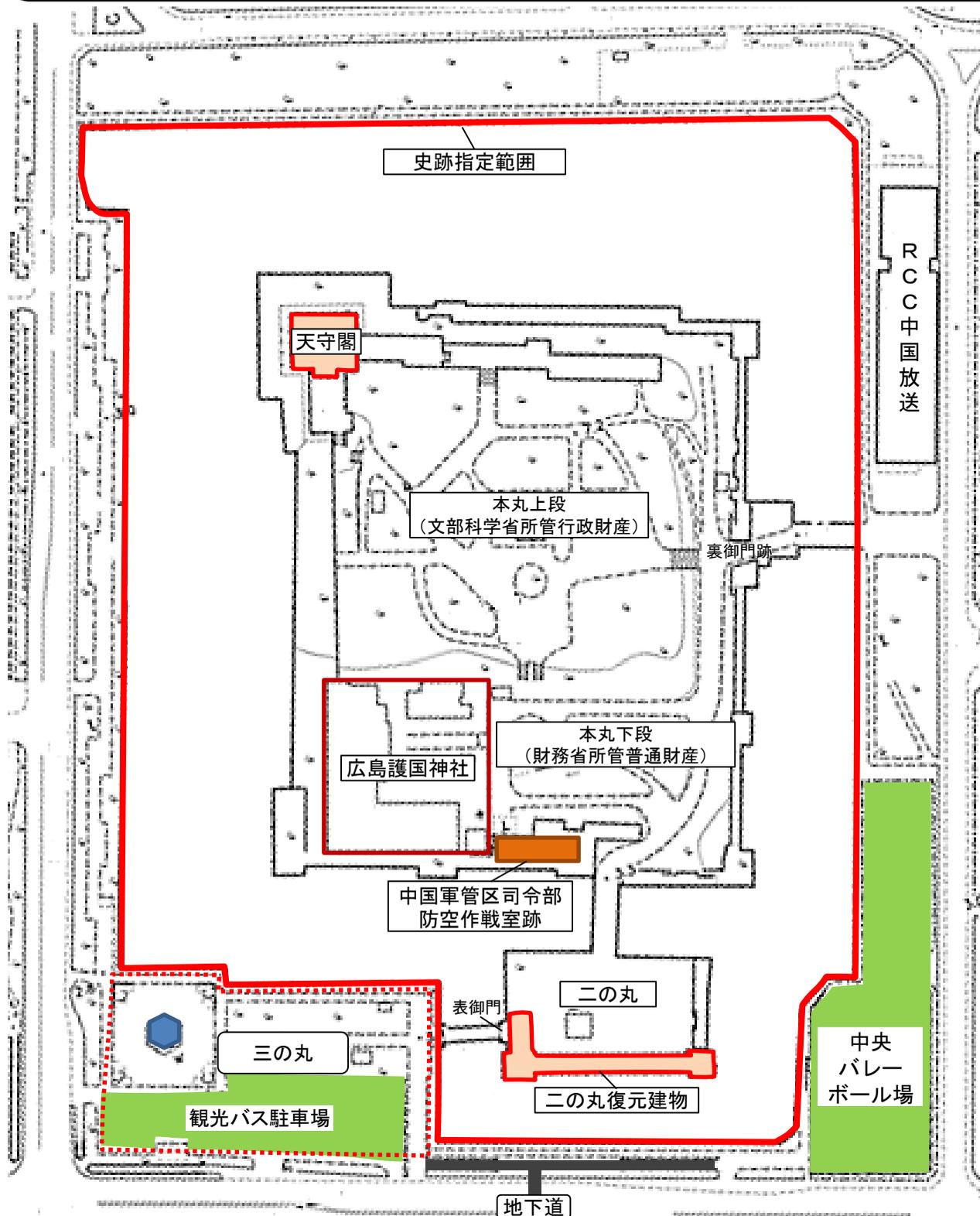
## ○ 計画策定の趣旨

- ・広島城天守閣は、耐震診断調査の結果、耐震不適格な状態であることが判明し、現在、木造復元を目指す本格的な調査検討を進めている。また、展示収蔵機能を三の丸に移設・拡充することを想定し、三の丸に充実した規模及び内容を備えた展示収蔵施設を導入することとしている。
- ・広島城の歴史・文化の発信拠点としての魅力の向上を図るためには、広島城の各エリアが有する魅力を一体的に発信することが重要となることから、本丸、二の丸及び三の丸の各エリア並びにそれぞれに位置する天守閣、二の丸復元建物及び三の丸展示収蔵施設(仮称・新設)を対象にした広島城全体の展示基本計画を策定する。
- ・広島城展示基本計画においては、上記の観点及び今後の展示設計・建築設計を見据え、事業全体の実施方針、展示構成、施設規模・配置計画及び概算事業費等を定めることとする。

# 広島城の現状・課題

# 広島城の各エリアの概要

- 広島城は、主に、本丸(天守閣を含む)、二の丸(二の丸復元建物を含む)、三の丸の各エリアから構成されている。
- 広島城跡は文化財保護法上の国の「史跡」として指定されており、その大部分が国有地である。



場所	土地所有者等	施設名等	施設概要 (敷地面積等)	管理運営主体※1	
中央公園 史跡広島城跡	文部科学省 所管 (行政財産)	本丸(上段)	28,821.47㎡	緑政課 ((公財)広島市みどり生きもの 協会)	
		天守閣	鉄筋コンクリート造、 瓦ぶき (昭和33年建築) 1,358.97㎡(延床面積)	文化振興課 ((公財)広島市文化財団)	
	財務省 所管 (普通財産)	本丸(下段)	84,240.36㎡ ※2 ((一財)広島市母子寡婦福祉連 合会が運営する休憩所・売店 (延床面積:29.37㎡)あり)	緑政課 ((公財)広島市みどり生きもの 協会)	
		二の丸	木造、瓦ぶき (表御門:平成3年建築、 平櫓・多門櫓・太鼓櫓:平成6年 建築) 延床面積:616.77㎡	文化振興課 ((公財)広島市文化財団)	
			中央バレーボール場	7,684㎡	スポーツ振興課 ((公財)広島市スポーツ協会)
			三の丸	約4,500㎡ (観光バス駐車場部分)	緑政課 ((公財)広島市みどり生きもの 協会)
	宗教法人 広島護国神社	広島護国神社	4,958㎡	宗教法人 広島護国神社	
	(株)中国放送	RCC中国放送	約4,700㎡	(株)中国放送	

※1 括弧内は指定管理者。

※2 本丸下段の敷地面積は、史跡指定範囲のうち、本丸上段(文部科学省所管行政財産)及び広島護国神社所有地以外の部分の面積であり、内堀及び二の丸の敷地面積を含む。

# 広島城（天守閣・二の丸復元建物）の入館者数

## 現状・課題

- 広島城天守閣の入館者数はおおむね増加傾向にあり、平成17年度（2005年度）の入館者数（126,609人）と比較すると2.5倍以上となっている。
- 広島城が、歴史・文化の発信拠点として、また観光拠点として、一層の魅力の向上を図ることができれば、広島平和記念資料館等からの観光客の効果的な誘導が図られ、広島城入館者数の更なる増加が期待される。

### <広島城(天守閣・二の丸復元建物)入館者数の推移>

単位:人

	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度※ (2019年度)
広島城天守閣 (対前年度比較)	255,042	305,731 (+50,689) (+19.8%)	333,187 (+27,456) (+9.0%)	330,416 (△2,771) (△0.8%)	305,164 (△25,252) (△7.6%)	328,479 (+23,315) (+7.6%)
うち外国人	37,977	48,946 (+10,969) (+28.9%)	60,047 (+11,101) (+22.7%)	71,865 (+11,818) (+19.7%)	94,004 (+22,139) (+30.8%)	101,619 (+7,615) (+8.1%)
二の丸復元建物	90,370	101,618 (+11,248) (+12.4%)	110,123 (+8,505) (+8.4%)	103,653 (△6,470) (△9.4%)	98,317 (△5,516) (△5.1%)	104,197 (+5,880) (+6.0%)

※ 令和元年度は2月29日から臨時休館。

### <参考:広島平和記念資料館入館者数>

単位:人

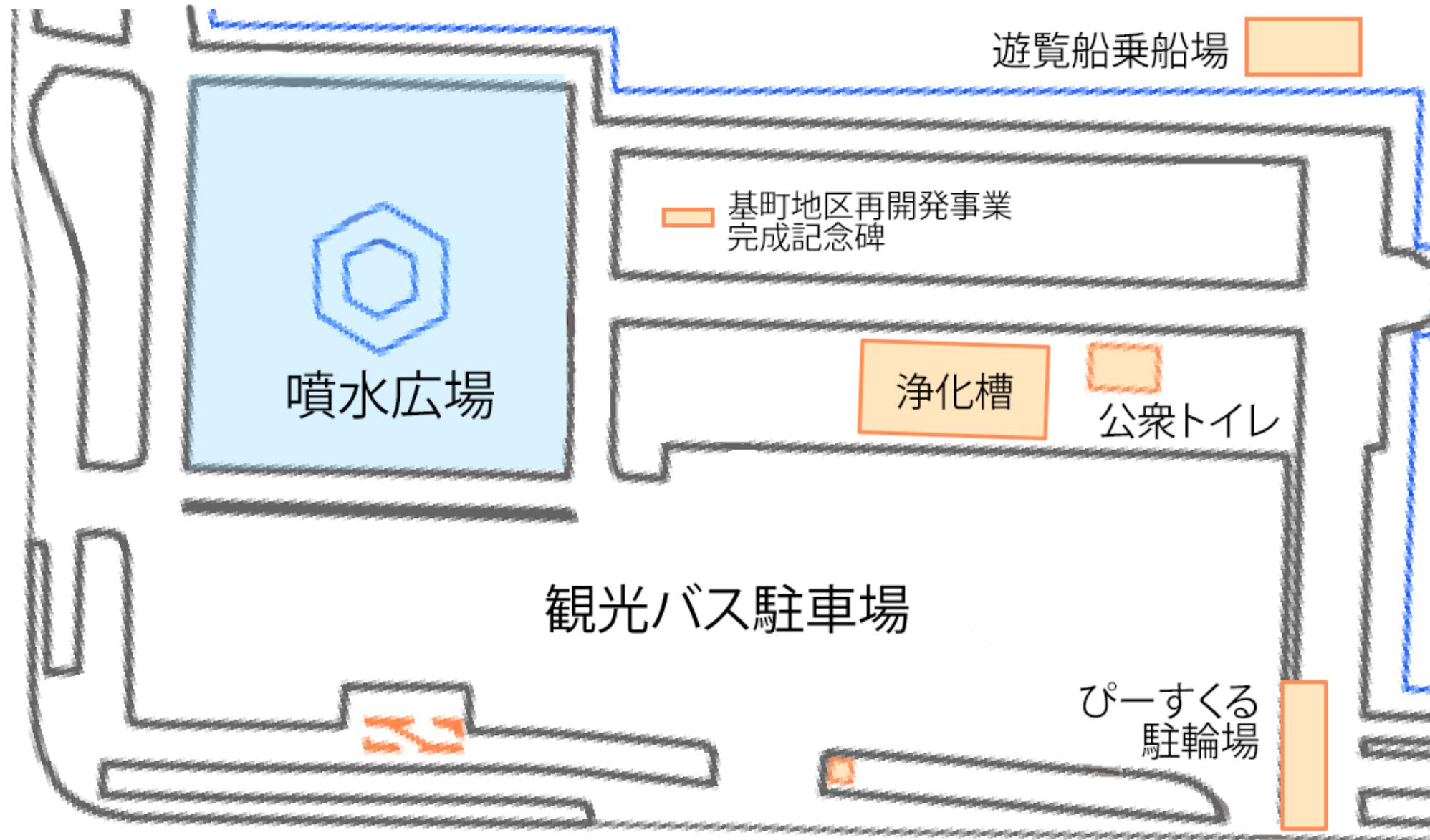
	平成26年度 (2014年度)	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度※ (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度※ (2019年度)
広島平和記念資料館 (対前年度比較)	1,314,091	1,495,065 (+180,974) (+13.8%)	1,739,986 (+244,921) (+16.4%)	1,680,923 (△59,063) (△3.4%)	1,522,453 (△158,470) (△9.4%)	1,758,746 (+236,293) (+15.5%)
うち外国人	234,360	338,891 (+104,531) (+44.6%)	366,779 (+27,888) (+8.2%)	392,667 (+25,888) (+7.1%)	434,838 (+42,171) (+10.7%)	522,781 (+87,943) (+20.2%)

※ 平成29年4月、東館リニューアルオープン。平成31年4月、本館リニューアルオープン。  
令和元年度は2月29日から臨時休館。

# 三の丸エリア

## 現状

- 本丸・二の丸を囲む凹字型の曲輪であった三の丸の一部。浅野期には藩の公用地、重臣の屋敷地として使用された。三の丸屋敷は廃藩置県後に広島県庁として使用されたが後に焼失。
- 現在は観光バス駐車場、噴水広場、遊覧船乗船場（現在運休中）、ピーすくる（シェアサイクル）設置場所等として利用されている。
- 中央公園広場（サッカースタジアムの建設地）と隣接し、また、紙屋町・八丁堀地区から広島城への来訪者の玄関口となっている。



<三の丸の配置図>

(地理院タイルを加工して作成)

# 三の丸エリア

## <観光バス駐車場の概要・利用状況>

管理主体	(公財)広島市みどり生きもの協会
利用時間	6:00~22:00
利用可能台数	60台
利用状況	1万2,766台(令和元年度)



<観光バス駐車場>

## <噴水広場の概要・利用状況>

○昭和48年に花の精建設委員会により花の精を象徴するモニュメント(圓鍔勝三作「花の精」)が設置され、その周辺を池で囲み市民の憩いの場となっている(現在、噴水は休止。)

○毎年5月頃、「花供養」の行事が開催されている。

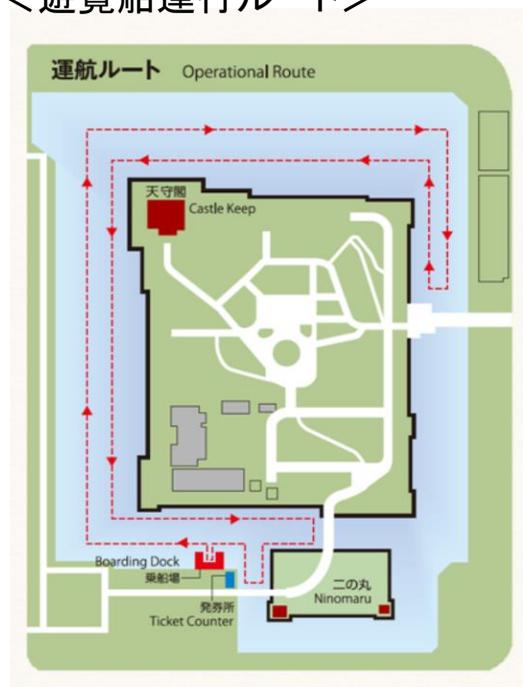


<噴水広場>

## <遊覧船の概要・利用状況>※現在運休中

実施主体	NPO法人クリーンディーシークラブ
運航	朝(10時~11時)、昼(12時~14時)、夕(14時20分~15時20分)各6便(水・木運休) ※臨時便、特別イベント船(お花見遊覧船、納涼遊覧船、紅葉遊覧船)も別途運航。
利用者数	9,798人(令和元年度)
備考	棧橋の維持管理、運航環境の整備や藻の除去を市がNPO法人に業務委託。

## <遊覧船運行ルート>



<遊覧船乗船場>

# 三の丸エリア

## 課題

- 建築物の建築等による有効活用が可能なスペースであるにもかかわらず、広島城に不足する飲食・物販施設等の利便施設が存在しない。
- 平和記念公園、紙屋町・八丁堀地区及び広島駅等の都心空間から観光客を十分誘導できていない。

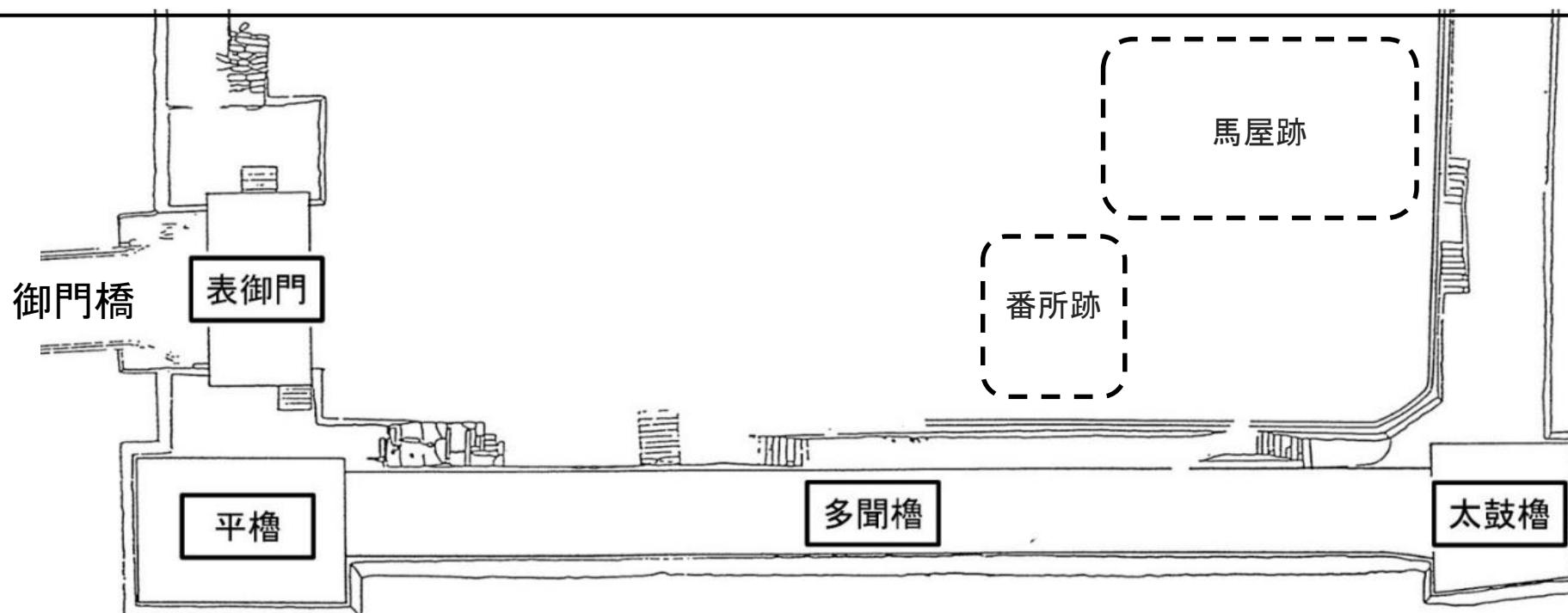
## 施設整備を行う場合の留意事項

- 文化財保護法の規制(現状変更の許可制)の対象外であるが、同法の「周知の埋蔵文化財包蔵地」に当たるため、施設整備の際に、遺構の保存等を考慮した対応を検討する必要がある。
- 観光バス駐車場**  
必要な事業用地を確保するため、観光バス駐車場(約4,500㎡)を移転する必要がある。(移転先:現在の中央バレーボール場用地)
- モニュメント等**  
噴水広場のモニュメント、石碑等について、現在の場所に配置された経緯等も十分考慮しながら移設等の対応を行う必要がある。
- 地下の既存施設等**  
地下にはアストラムライン路線や共同溝(上水道)、地下河川(堀川)、下水道等の既存施設等が存在するため、地上部利用や工事において配慮が必要となる。  
また、浄化槽については、平成元年度から平成5年度にかけて実施した堀川浄化事業以前に使用していたが、現在機能していないため、地下部分を含め撤去等の対応を行う必要がある。
- 景観・眺望への配慮**  
広島市景観計画の景観形成の方針等を遵守しつつ、江戸時代後期の広島城下の街道筋をイメージした景観形成に努めるとともに、天守閣や石垣への眺望に配慮する必要がある。
- 関連事業との連携**  
サッカースタジアムの整備や旧広島市民球場跡地の整備等、関連事業との相乗効果を意識した整備を進める必要がある。

# 二の丸エリア

## 現状

- 本丸の南に位置する小さな曲輪で、相手の進入を防ぐとともに、出撃時の安全を確保するための馬出としての機能を持つ。
- 原子爆弾によってエリア内全ての建物が倒壊・焼失したが、広島城築城400年記念事業の一環として伝統工法による復元に取り組み、平成6年(1994年)までに表御門、平櫓、多聞櫓、太鼓櫓が順次竣工した。
- 二の丸復元建物の利活用の観点から、史跡広島城跡二の丸の活用・整備に係る意見交換会における議論も踏まえつつ、平成28年度(2016年度)から新たな取組として、茶会、和楽・演芸鑑賞会、伝統工芸品の企画展示等を実施している。



<二の丸の配置図>



<表御門>



<平櫓>



<多門櫓・太鼓櫓>

# 二の丸エリア（二の丸復元建物）

## ＜利用案内＞

開館時間：9:00～17:30（10月～3月は16:30まで）

休館日：年末年始（12月29日～1月2日）

観覧料：無料



＜茶会の様子＞



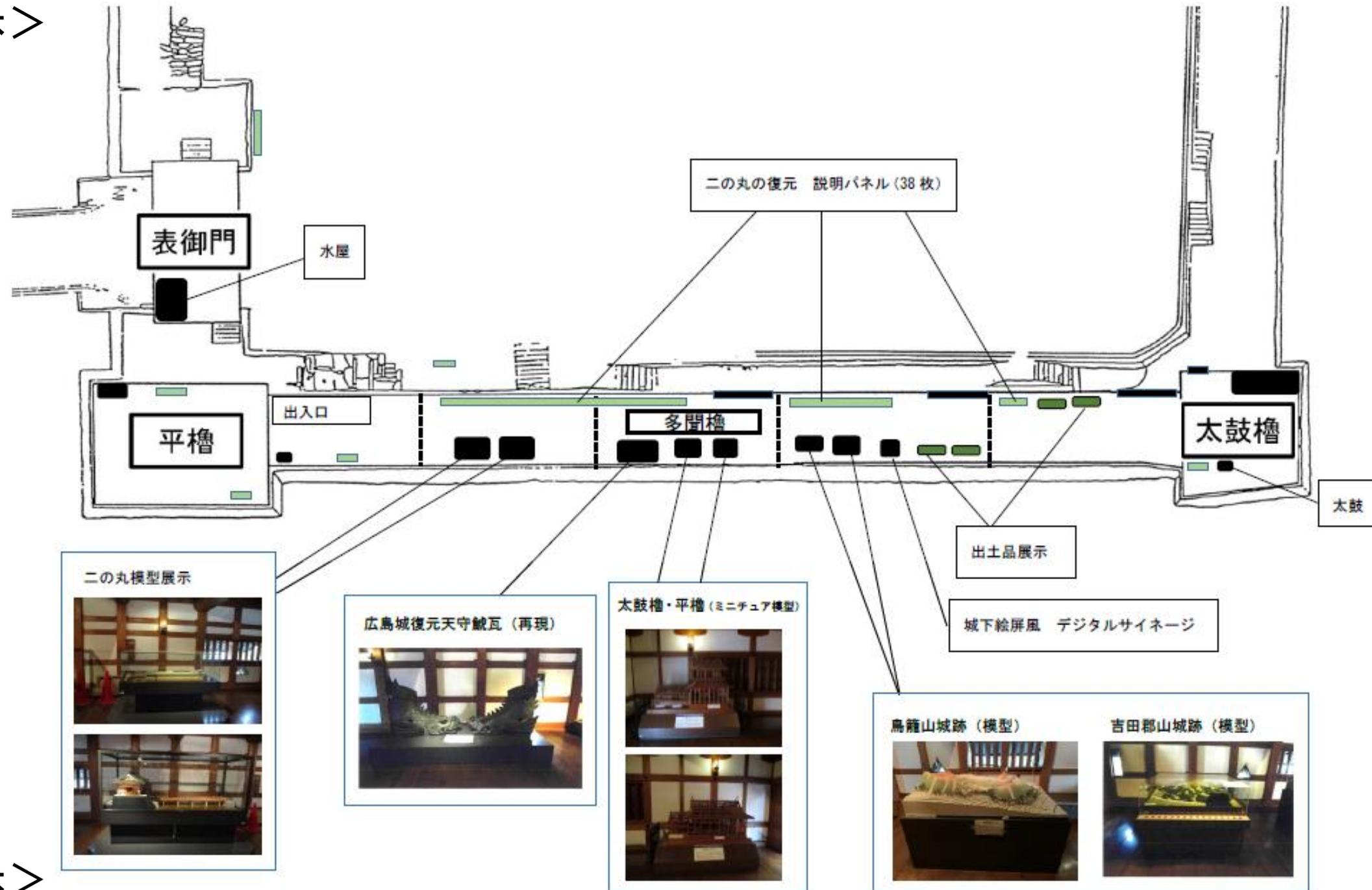
＜和楽・演芸鑑賞会の様子＞

## ＜企画展の開催状況＞

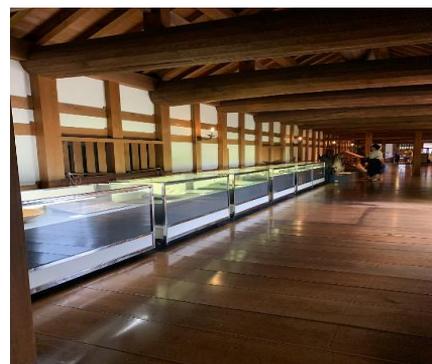
年度	事業名	会期	内容等
H29 (2017)	「観月と工芸」展	9月30日～10月9日	場所：平櫓、多門櫓、太鼓櫓 内容：漆器、磁器等の展示、観月会、ギャラリートーク等 入場者数：3,209人
H30 (2018)	「浅野 陽」展	10月13日～11月12日	場所：多門櫓 内容：陶芸作品の展示、ギャラリートーク等 入場者数：8,648人
R元 (2019)	「浅野 陽—陶—」展	9月21日～10月14日	場所：多門櫓 内容：陶芸作品の展示、講演会 入場者数：8,852人
	「銅蟲」展	2月15日～3月8日 ※ 2月29日から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	場所：多門櫓 内容：銅蟲の展示 入場者数：3,006人
R2 (2020)	「縮景園と広島」展	10月30日～11月30日	場所：多門櫓 内容：縮景園築庭400年を記念したパネル展 入場者数：6,973人
	「発見！ 広島城二の丸」展	2月8日～2月26日	場所：多門櫓 内容：二の丸の変遷・役割、建物の復元過程をパネル展示 入場者数：1,499人

# 二の丸エリア（二の丸復元建物）

＜常設展示＞



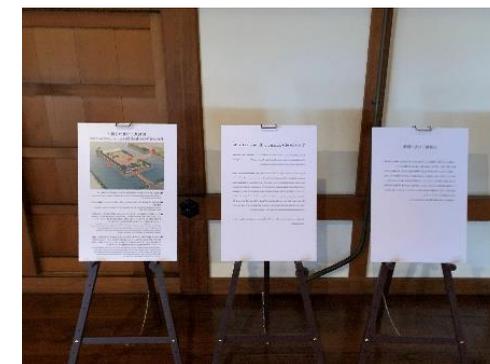
＜企画展示＞



＜浅野 陽一陶一展＞



＜縮景園と広島展＞



＜発見！広島城二の丸展＞



# 二の丸エリア

## 課題

### <二の丸復元建物>

- 平成6年(1994年)までに復元された二の丸復元建物について、現状では復元工事に関するパネル解説の展示や、和楽・演芸鑑賞会等の年数回のイベントで活用されるのみであり、復元に当たり使用された伝統工法や城の機能の体感など建物自体が有する魅力を十分に発信できていない。
- 江戸時代の姿を忠実に木造復元した建物であって、展示を行うための施設として復元していないことから、空調設備等は設置しておらず、展示可能な資料に制約がある。
- 現在、復元建物の魅力を伝える方策の一つとして、環境に耐え得る出土品等の展示を行っているが、「城の役割・機能や伝統文化を学び、体験できる場」というコンセプトが来訪者に十分伝わっていないと考えられる。

### <近世遺構>

- 二の丸復元建物の前の広場には、馬屋跡や番所跡などの遺構の配置を示す展示がされているが、案内・説明が不十分であり、来訪者に十分認識されていないと考えられる。

# 本丸エリア

## 現状

- 広島城の中心に位置する方形の曲輪。上段・下段から構成され、上段北西角に複連結式の天守群があった。本丸上段の本丸御殿は明治初期に焼失。大天守、中御門、裏御門の門扉等が残っていたが、原子爆弾によって建物全てが倒壊又は焼失した。
- 上段には広島鎮台司令部の洋館(日清戦争時の広島大本営)の基礎などの石材が残っている。
- 下段には売店があるほか、中国軍管区司令部防空作戦室跡が残っているが、防空作戦室跡は建物の老朽化等により安全性が確保できないことから、平成29年(2017年)4月から一般公開を中止している。



<本丸上段近景>



<広島大本営跡>



<防空作戦室跡>

# 本丸エリア

## 課題

### <コンテンツ>

- 広島大本営跡や中国軍管区司令部防空作戦室跡など、近代の広島を語るコンテンツが十分活用されていない。
- 近世の石垣や中御門跡にある被爆時の火災の熱によって赤く焼けた石垣、カキ殻が付いている石垣などの見どころがあるにもかかわらず、説明板がないため、来訪者に十分認識されていないと考えられる。

### <修景施設>

- 植栽の管理が適切にできていないため、眺望が遮られ、広島城跡内の大部分で天守閣を望むことができない。

### <便益施設>

- 売店は広島護国神社前の1店舗のみであり、観光客を受け入れる上では十分な状況とはいえない。
- 天守閣内も含めてコインロッカーが設置されていないため、手荷物の多い観光客にとって利便性に欠ける面がある。
- 本丸には公衆トイレが設置されているが、外国人のみならず日本人に対しても規模や美観面、バリアフリー対応の面からも配慮されたものとなっていない。
- 案内板が不十分であり、既存のものも順次設置されてきたことから、多種多様な意匠、形態、色彩等から構成されており、統一感が感じられない。

# 本丸エリア（天守閣）

## 現状

- 昭和20年（1945年）の原爆投下により毛利時代築造の大天守（旧国宝）は倒壊。昭和33年（1958年）の広島復興大博覧会のために鉄筋コンクリート造で外観復元され、同年6月、「広島城郷土館」として開館。
- 当初、人文系・自然史系の資料を展示していたが、平成元年（1989年）に広島の武家文化を中心とした歴史博物館として、リニューアルオープン（「広島城」に改称。）。

## <利用案内>

開館時間：9:00～18:00（12月～2月は17:00まで）

休館日※1：年末（12月29日～31日）

観覧料※2：大人 370円（280円）

シニア・高校生 180円（100円）

中学生以下 無料

※1 臨時休館する場合あり

※2 括弧内は30名以上の団体料金

## <天守閣内の展示構成等>

総合テーマ：「城下町広島の発展と暮らし」

第1層：常設展「広島城の成立と役割」をテーマとした展示

第2層：常設展「城下町広島の暮らしと文化」をテーマとした展示

第3層：常設展 武具・刀剣・甲冑展示

第4層：企画展示

第5層：展望室



<天守閣>

## <第4層における企画展示の内容（令和元年度）>

事業名	実施時期	内容
「お城と城下のお花見事情」	2～4月	江戸時代の広島城とその城下での桜の名所、花見の様子について、絵図や文書、花見道具などにより紹介
「学芸員のおススメ Part4」	4～7月	学芸員が収蔵品の中からイチオシ資料を紹介する企画展の第4弾
「 <u>浅野家がたどった城 浅野家の城と陣屋</u> 」	7～9月	浅野家が広島城に入城してからの城や、入城するまでの城など、浅野家の城を紹介
「 <u>えがかれた江戸時代の広島</u> 」	9～10月	広島城下や宮島、三原など浅野氏治世期にえがかれた 広島藩領の風景等を取り上げ、繁栄の時代を紹介
「 <u>江戸屋敷・大坂蔵屋敷</u> 」	10～12月	古写真や絵図・絵画資料などにより広島藩の江戸屋敷・大坂蔵屋敷を紹介
「江戸時代の天文学」	12～1月	天体観測の様子を記録した絵画や書簡、天文学書や観測器具などから江戸時代の天文学を紹介
「馬具～人と馬をつなぐもの～」	2月	馬具に注目し、時代や用途による機能やデザインの違いなどを紹介

※ 下線は浅野氏広島城入城400年記念事業

# 本丸エリア（天守閣）

## 課題

- 平成20年度（2008年度）以降、展示室には空調設備の導入を進めたものの、建物内のスペースが狭いことなどにより、収蔵庫への空調設備の導入や、雨天時にも展示物の搬出入に対応できる車両搬出入口の設置が難しいなど、展示・資料保存の面で課題を抱えており、より歴史的価値の高い展示物の広島城への寄贈・寄託・借用が難しい状況にある。
- 市民からの寄贈資料が増加傾向にあることから、元々十分でない収蔵スペースが更に不足するおそれがある。
- トイレやロッカーなどの便益施設が整備されていない。

## <展示環境>

項目	一般的に望ましい展示環境	広島城における展示環境
温湿度管理	温度20度、湿度60%程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務用の空調設備は建物の構造上設置が難しいため、家庭用エアコンを設置して対応しているが、展示室の容量に機能が追いついておらず、温湿度の望ましい展示環境を実現できていない。</li> <li>・上記の制約の中、高性能の展示ケースを順次導入し、できるだけ望ましい展示環境に近づけている。</li> </ul>
照明管理	退色の要因となる紫外線を除去した照明器具を使用	LED照明を主に使用（紫外線を発しない）



<天守閣内の空調設備（家庭用エアコン）>



<広島城内の収蔵庫の状況>

# 現行の指定管理業務の概要

# 広島城指定管理業務の概要

○広島城の管理運営については、平成15年の地方自治法の改正により、平成18年度以降、指定管理者制度を導入している。

## 〔現在の指定管理の状況〕

- (1) 指定管理者：（公財）広島市文化財団
- (2) 指定期間：平成30年4月1日～令和4年3月31日（4年間）
- (3) 事業内容（広島城条例第3条に定める事業）
  - 武家文化を中心とした郷土の歴史に関する実物、文献、写真等の資料（以下「資料」という。）の収集、保管、展示及び供用
  - 資料の観覧及び利用に関する必要な説明及び助言
  - 資料に関する調査研究
  - 資料に関する解説書等の作成及び頒布
  - その他市長が必要と認める事業

⇒上記事業を、①収集保存事業、②調査研究事業、③展示事業、④教育普及事業、⑤交流サービス事業に分類し、次ページ以降に詳細を記載。

# ① 収集保存事業

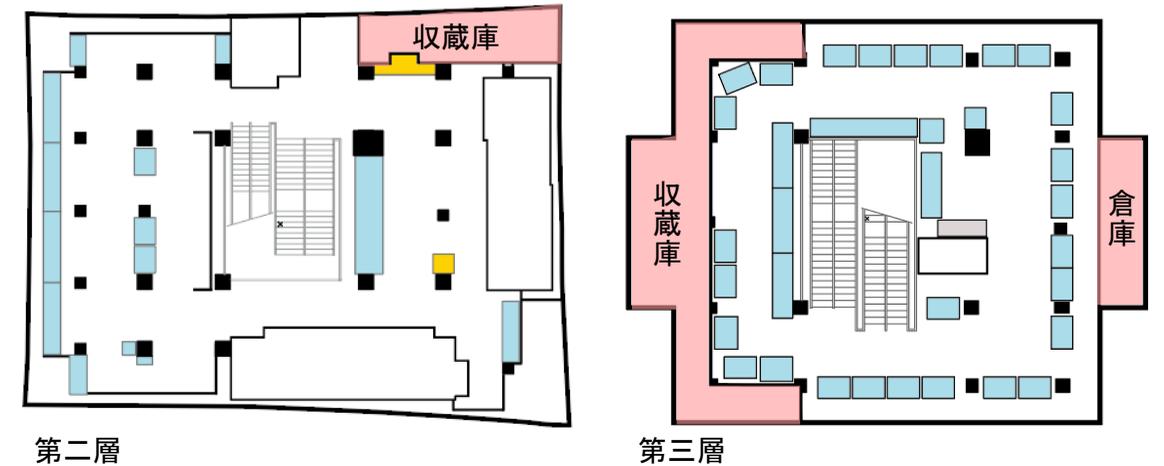
## <収集方針>

武家文化を中心とした郷土の歴史に関する実物、文献、写真等の資料(広島城条例第3条)を収集対象としている。

## <収蔵庫の概要>

場所	天井高	資料概要
第二層北収蔵庫	約3.0m	書画、軸装品、古文書類、大型掛軸、茶道具、調度品、ガラス乾板等
第三層西収蔵庫	約1.0~3.0m ※一部天井高が低い箇所あり	刀装具、武具甲冑類、調度品、鎧櫃、屏風箱、近代資料(大本営関係)等
第三層東倉庫 (一部収蔵資料保管)	約1.0~3.0m ※一部天井高が低い箇所あり	太鼓、神楽衣装・道具、被爆した瓦 等 その他展示備品資料等

## <天守閣内の収蔵庫及び倉庫(一部収蔵資料保管)位置>



## <代表的な展示資料>



<金箔鯨瓦>



<広島城下絵屏風>  
(広島市重要文化財)



<馬印>  
(広島市重要文化財)

## <収蔵資料の点数>

区分		実物資料	標本資料	模型・複製資料	合計
人文科学資料	古美術	713	-	9	722
	近現代美術	51	-	-	51
	考古学	137	-	-	137
	民俗	3,061	-	-	3,061
	歴史	1,645	5	39	1,689
	その他	32	-	-	32
合計		5,639	5	48	5,692

# ① 収集保存事業

## 課題

- 収蔵庫の内部空間が細長い形状のため、収蔵棚の効率的な配置が困難である。
- 収蔵資料の形状やサイズと棚の仕様が合っていない。また、落下防止策等の強化が望まれる。
- 空調設備は換気設備のみ。必要な湿度管理が十分にできない状況。
- 収蔵庫の出入口には前室が配置されていないため、開閉時に展示室内の空気が直接流入する状況。
- 扉(段差有)は一般的な扉で、防犯性能は十分とはいえない。
- 当初整備の棚はほぼ満載となっている。入りきらず床置きされている大型資料が庫内スペースの大部分を占めており、資料上部のスペースの活用が困難な状況。
- 第三層東倉庫はスペースの一部を収蔵資料の保管場所として利用しており、展示備品等と収蔵資料が混在して保管されている状況。内装材は必要最低限の仕様(壁はコンクリートブロック、床は合板材)。
- 現状は収蔵資料が倉庫に近い環境で保管されており、適正な環境下(収蔵庫)での保管が望まれる。



<第二層北収蔵庫内部の様子>



<第三層西収蔵庫内部の様子>



<第三層東倉庫内部の様子>  
(一部収蔵資料保管)

## ② 調査研究事業

### <実施方針>

広島城の築城が都市広島の原点であり、広島歴史の中心には常に広島城があったという歴史的な事実を基に、広島城を通して広島歴史と文化について調査研究し、その成果を展示や教育普及事業、情報発信等に活用し、広島に対する地域文化の形成発展に貢献することを目標とする。

### <実績>

- ・企画展などで公開された資料や情報を図録として作成頒布
- ・広報紙「しろや！広島城」の発行

### <課題>

資料の熟覧、撮影など調査研究の根幹となる作業スペースが十分に確保されていない。

# ③ 展示事業

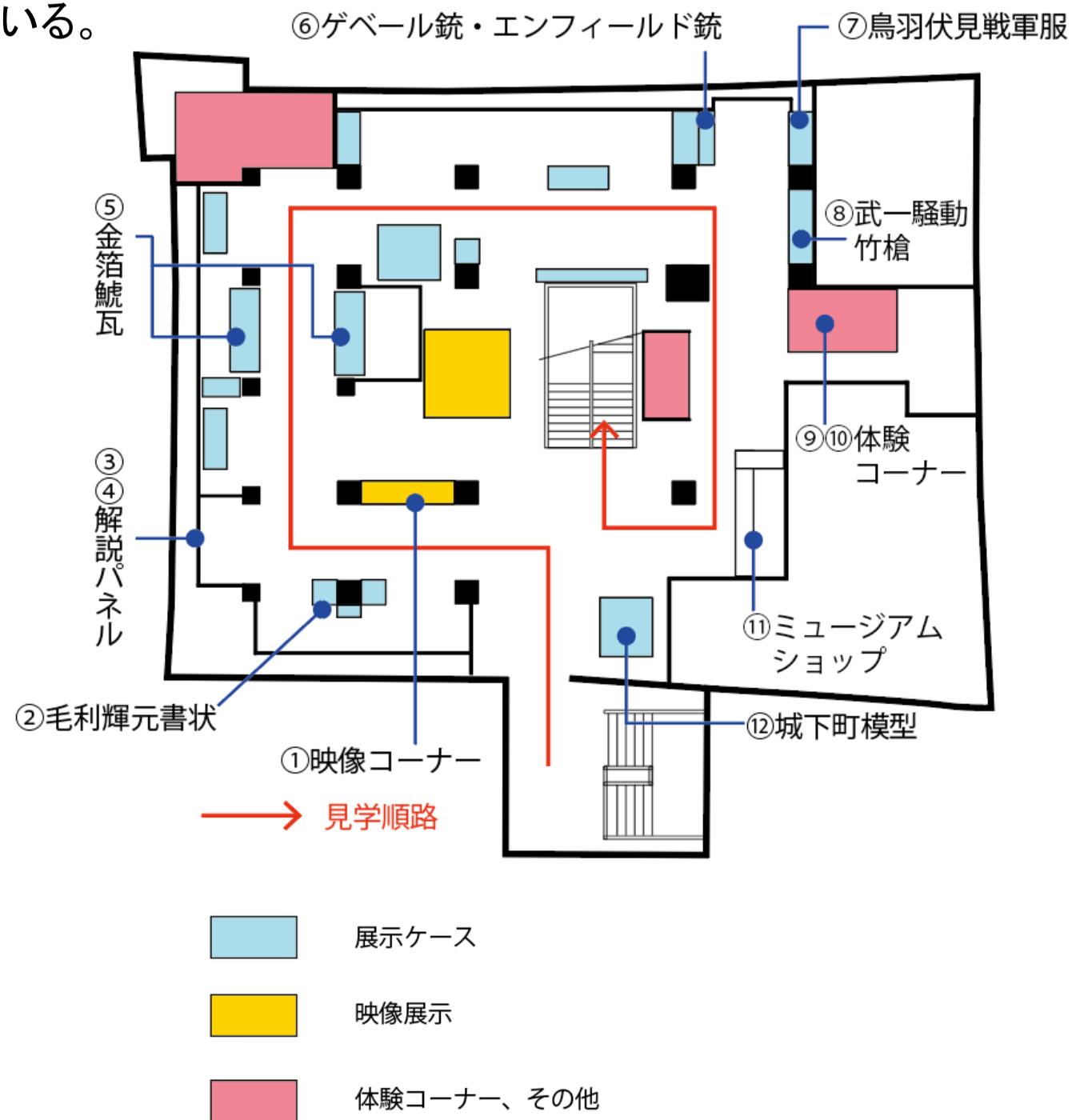
## 天守閣 第一層

<展示構成>

第一層では「広島城の成立と役割」をテーマに常設展示を行っている。

階層	エリア名	コーナー名	中項目	小項目				
第一層	広島城の成立と役割	1. 築城前の広島	黎明期の広島	黎明期の広島				
			築城前の広島	映像 築城前の広島	映像 築城前の広島			
				古代から中世の広島	古代から中世の広島			
				厳島神社	厳島神社			
				武田氏の統治	武田氏の統治			
				毛利氏の台頭	毛利氏の台頭			
				元就の夢	元就の夢			
				輝元の構想	輝元の構想			
				2. 城の移り変わり	城の移り変わり	城の形態	城の形態	
						中世の武士の館	中世の武士の館	
		中世の山城	中世の山城					
		3. 広島築城	広島城の城郭	広島城の城郭	広島城の城郭			
				広島築城	映像 広島築城 広島城の広さ			
		4. 広島藩の政治と城内生活	御殿の構造と役割	毛利氏の政治	毛利氏の政治			
				福島氏の政治	福島氏の政治			
				浅野氏の政治	浅野氏の政治			
				本丸・二の丸 復元図	知行制	知行制		
					職制	職制		
					郡奉行・町奉行	郡奉行・町奉行		
					おきて(掟)	おきて(掟)		
					災害	災害		
					5. 城の防備	天守閣の役割	天守閣の役割	天守閣の役割
							城郭の防備	城郭の防備・総構
		6. 藩から県へ	幕末から維新へ	幕府の滅亡	幕府の滅亡			
				廃藩置県	広島県の誕生			
				武一騒動	武一騒動	武一騒動		
					判決書	判決書		
		7. 体験コーナー	歴史衣装	甲冑・兜	甲冑・兜			
				シロねこ	シロねこ			
				しろうニヤさん	しろうニヤさん			

<展示面積> 355m<sup>2</sup>



### ③ 展示事業

＜第1層：「広島城の成立と役割」をテーマとした展示＞



①映像コーナー「築城前の広島」



②毛利輝元書状



③解説パネル(～毛利氏)



④解説パネル(毛利氏～浅野氏)



⑤金箔鯨瓦



⑥ゲベール銃・エンフィールド銃



⑦鳥羽伏見戦軍服



⑧武一騒動竹槍



⑨体験コーナー



⑩体験コーナー



⑪ミュージアムショップ



⑫城下町模型

# ③ 展示事業

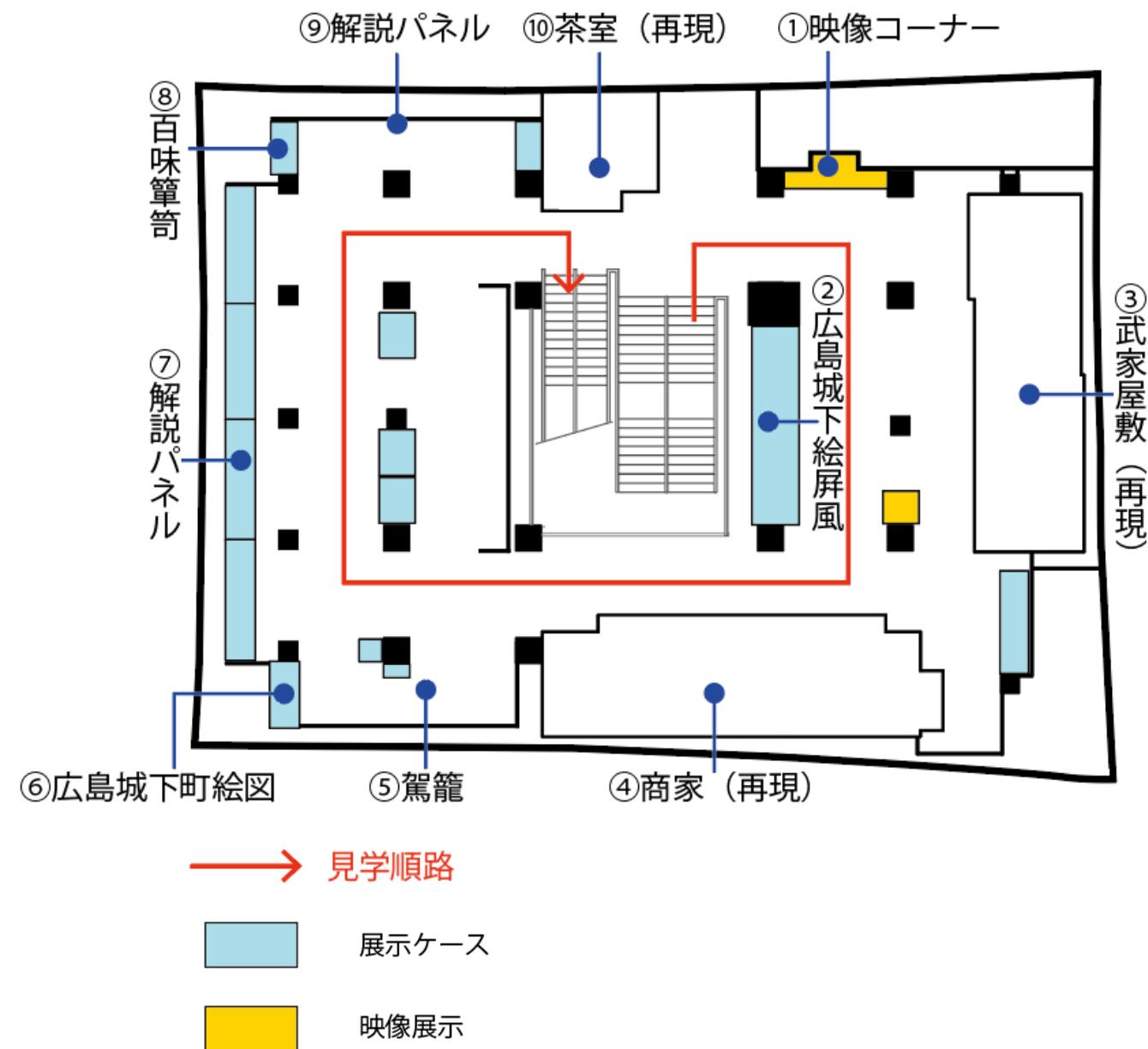
## 第二層

### <展示構成>

第二層では「城下町広島のくらしと文化」をテーマに常設展示を行っている。

階層	エリア名	コーナー名	中項目	小項目							
第二層	城下町広島のくらしと文化	1. 城下町広島のひろがり	城下町広島のひろがり	映像 城下町広島のひろがり							
		2. 武士の生活・庶民の生活	再現展示 武家屋敷								
			再現展示 商家								
		3. 産業・交通	交通	交通体系	川の交通	陸の交通	海の交通				
				4. 祭							
				川の祭							
				5. 教育・学問と文化	教育と思想	藩学問所	私塾・寺子屋	頼山陽	国学		
		芸術・芸能	心学			文芸	書画	広島の工芸	広島の芸能	武芸	医術
			茶道			再現展示 茶室					
			6. 明治維新後の広島			原子爆弾が投下される以前の広島城					
					原爆の被害						
					広島城の戦後						

<展示面積> 342m<sup>2</sup>



### ③ 展示事業

<第2層:「城下町広島のくらしと文化」をテーマとした展示>



①映像コーナー「城下町広島のひろがり」



②広島城下絵屏風



③武家屋敷(再現)



④商家(再現)



⑤駕籠



⑥広島城下町絵図



⑦解説パネルと資料(教育と思想)



⑧医療と百味筆筒



⑨解説パネル(明治維新後の広島城)



⑩茶室(再現)

# ③ 展示事業

## 第三層

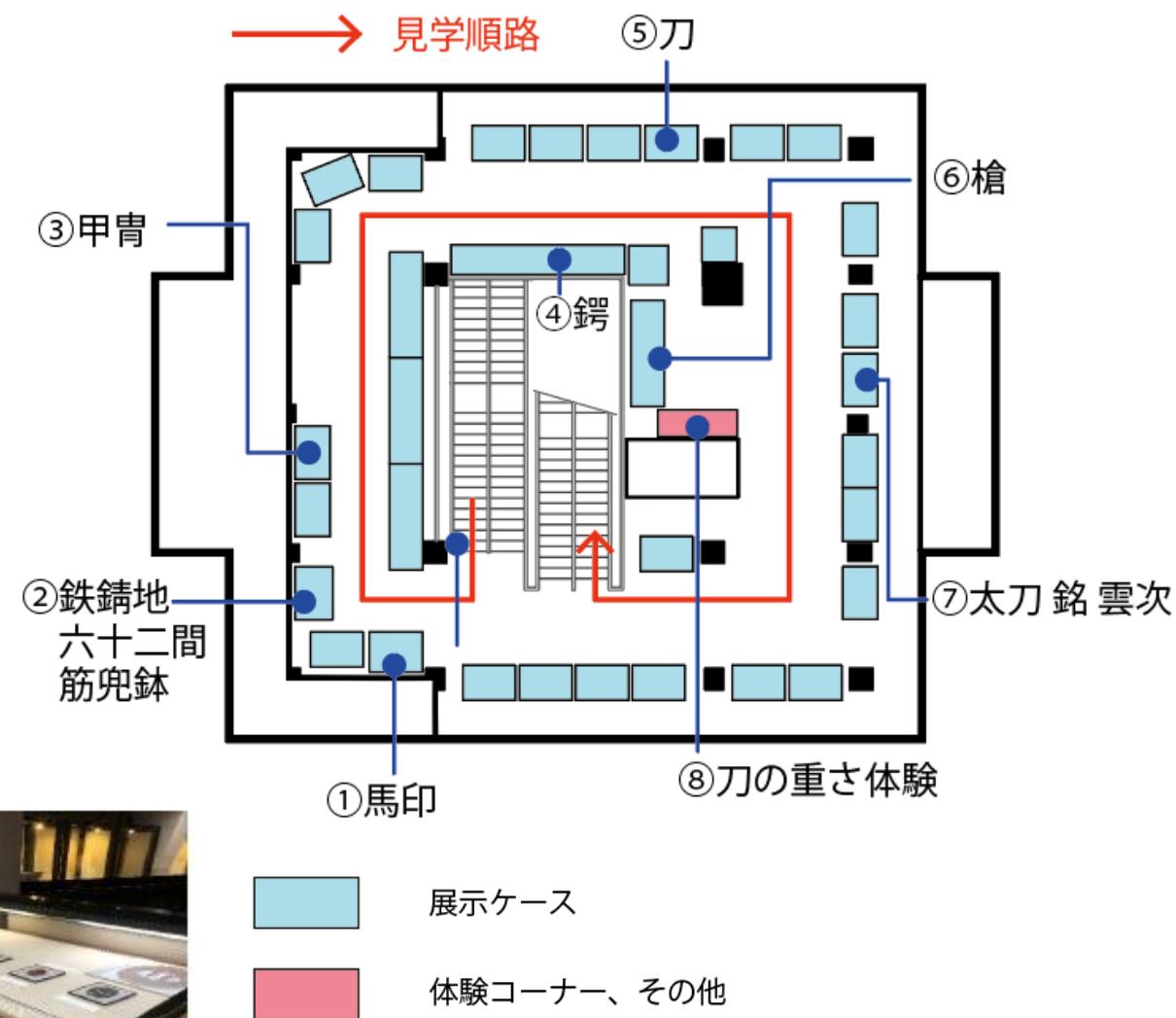
### <展示構成>

第三層では「武具・刀剣・甲冑」をテーマに常設展示を行っている。第一層、第二層とは異なり、コーナー立てがなく、資料展示が中心となっている。

階層	エリア名	内容
第三層	武具・刀剣・甲冑	広島市重要文化財 馬印
		武具・甲冑
		日本刀のできるまで
		鐺
		刀剣・槍
		槍
		刀の重さ体験

### <展示面積>

180m<sup>2</sup>



### <第3層: 武具・刀剣・甲冑展示>



①馬印



②鉄錆地六十二間筋兜鉢



③甲冑



④鐺



⑤刀



⑥槍



⑦太刀銘雲次



⑧刀の重さ体験

# ③ 展示事業

## 第四層(企画展示)

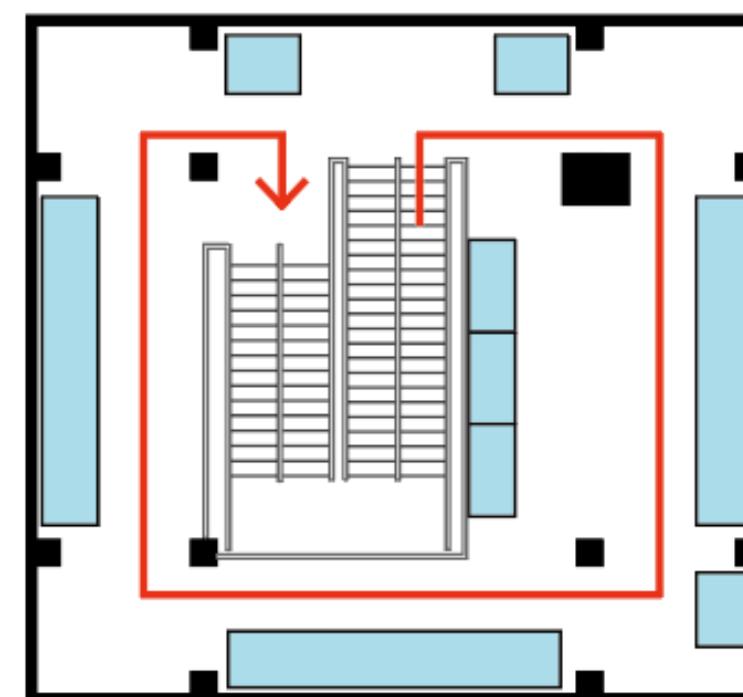
第四層は企画展示室として活用され、広島市の歴史・文化、城郭に関する企画展を毎年おおむね6回程度実施している。

### <近年開催の企画展>

年度	事業名	次期	入場者数等
H30 (2018)	絵で見る広島城の歴史	4月7日～5月27日	展示ガイド23回、入場者54,161人
	感謝・還暦 広島城～失われた城・よみがえった城	6月1日～9月2日	展示ガイド28回、関連イベント2回、入場者73,624人
	資料の中の動物たち	9月8日～10月28日	展示ガイド20回、関連イベント2回、入場者45,453人
	明治維新と広島	11月3日～12月16日	展示ガイド17回、入場者35,619人 ※郷土資料館との連携展示
	学芸員のオススメ Part3	12月22日～2月11日	展示ガイド22回、入場者43,482人
	お城と城下のお花見事情	2月16日～4月7日	展示ガイド10回、入場者51,751人
R元 (2019)	学芸員のオススメ Part4	4月13日～7月7日	展示ガイド35回、入場者91,928人
	浅野氏広島城入城400年記念事業 浅野家がたどった城 浅野家の城と陣屋	7月13日～9月1日	展示ガイド19回、入場者52,058人
	浅野氏広島城入城400年記念事業 えがかれた江戸時代の広島	9月7日～10月14日	展示ガイド18回、関連イベント2回、入場者43,776人 ※広島市寄託
	浅野氏広島城入城400年記念事業 江戸屋敷・大坂蔵屋敷	10月19日～12月1日	展示ガイド19回、入場者55,629人
	江戸時代の天文学	12月7日～1月26日	展示ガイド18回、関連イベント1回、入場者35,163人
	馬具～人と馬をつなぐもの	2月1日～2月28日	展示ガイド12回、入場者19,363人

<展示面積> 120㎡

→ 見学順路



展示ケース

<第4層:企画展示> ※写真は「えがかれた江戸時代の広島」のもの。



①看板・パネル



②広島城下町絵図等



③絵図・書籍等

## ④ 教育普及事業

### <実施方針>

調査研究などで得られた成果を広く市民等に還元し、人々に歴史に触れてもらう機会を提供しつつ、地域の人材育成の事業を実施する。

### <実績>

- 展示ガイドの実施（日曜日を中心に実施）
- 歴史講座の開催
- 広島城跡内外で実施するフィールドワークの開催
- メモリアルデーや観月会の開催
- 兜、鎧等の着用、刀の重さ体験の実施

### <課題>

- 現天守閣には教育普及事業で使用できる部屋がないため、近隣施設を借用して講座等を実施しており、人員や日程調整に制約がある。
- 体験型は人気だが、スペースを今以上に拡大することができない。

## ⑤ 交流サービス事業

### <実施方針>

広島城の活性化と認知度向上、利用者増を図るため、市民、学校、他団体や民間事業者等との連携・協力要請に基づいて事業を実施する。また、ホームページや広報紙の発行等により、情報発信、広報事業を展開する。

### <実績>

- 学校、公民館等と連携した展示、講座、フィールドワークなどの出張事業を実施
- 地域団体との連携
- 博物館実習、インターンシップなどの実施
- 広報紙「しろうや！広島城」の発行

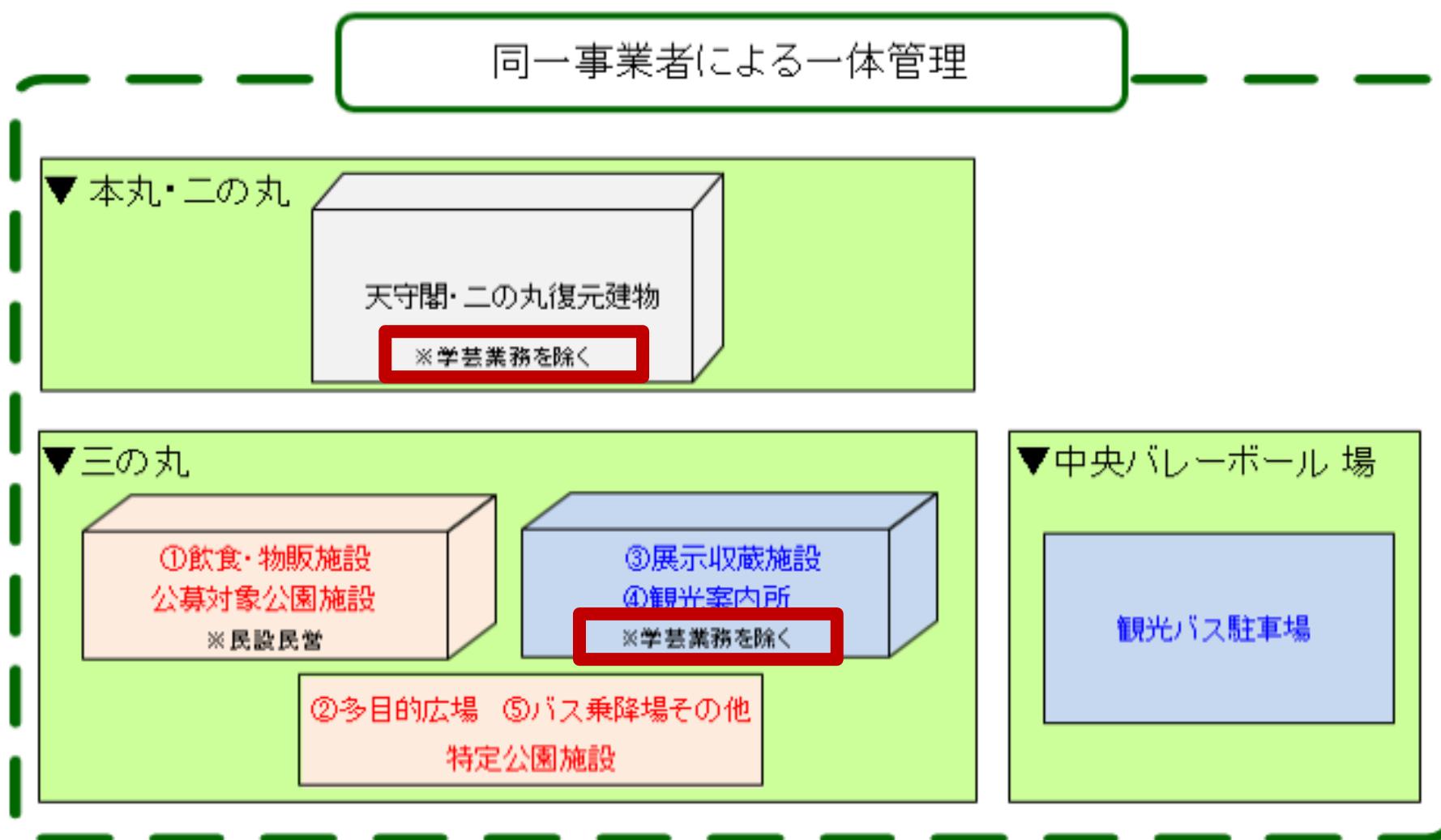
### <課題>

- ホームページの表示がスマートフォン対応となっていない。
- 通信インフラが整備されていないため高速通信サービスを利用した事業が展開できない。

# 三の丸施設整備を含む今後の管理運営

# 広島城全体の管理運営の考え方

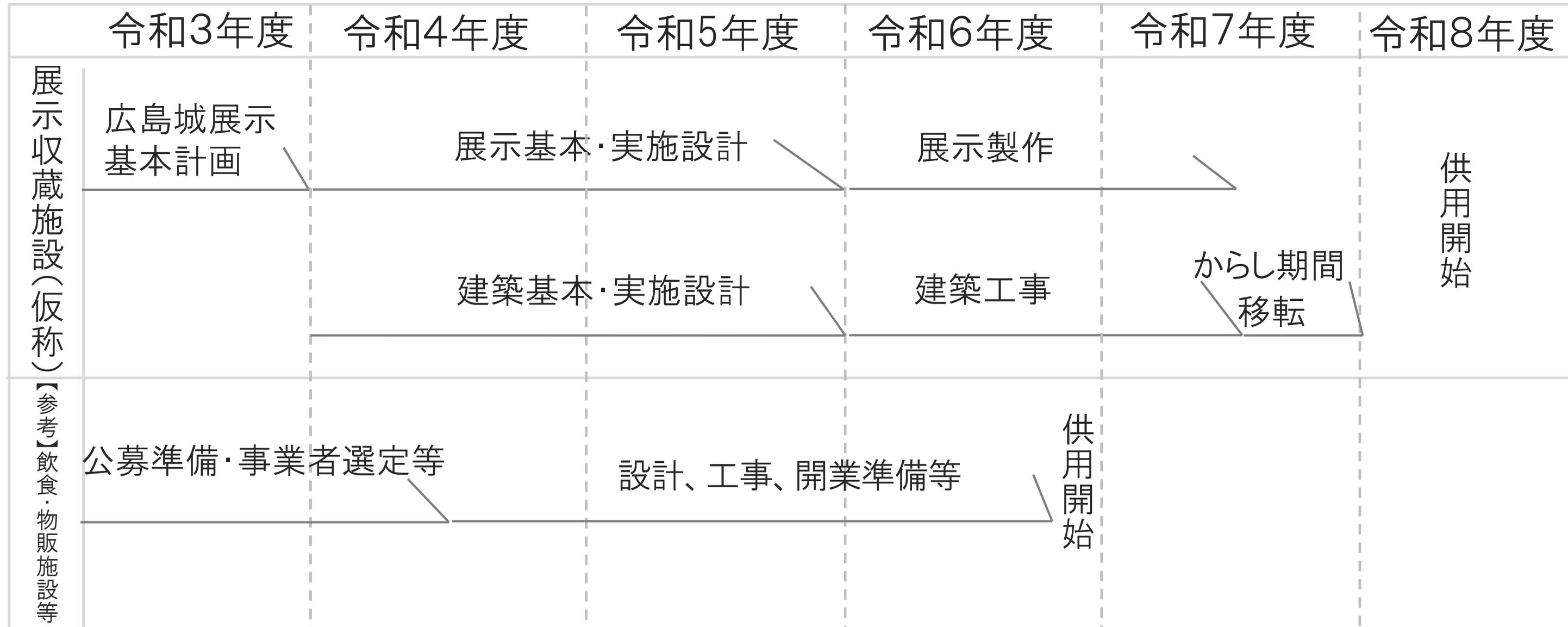
○広島城三の丸整備基本計画において、広島城一帯の用地及び建物は、同一事業者が全体の指定管理業務を担うことを想定している。なお、展示収蔵施設での展示企画など専門的なノウハウが求められる学芸業務については、別途運営事業者を選定し、両事業者の連携の下、一体的な魅力の創出を図ることとしている。



# 三の丸展示収蔵施設（仮称）等整備スケジュール

○飲食・物販施設等は令和6年度の供用開始を目指すが、展示収蔵施設（仮称）は令和8年度の供用開始を目指す。

○展示と建築の調整が必要であることから、展示設計と建築設計は同時並行で進める。



**本日御意見を頂きたい事項**

## 今後の方向性

### ○ 事業全体の実施方針について

広島城条例及び広島城基本構想の内容等を踏まえ、資料の収集保存、展示といった広島城の事業全体の実施方針及びそれに基づく広島城の各エリアが担うべき役割及び機能をどのように考えるか。

### ○ 展示事業の基本的な考え方について

実施事業のうち、特に、広島城全体(三の丸展示収蔵施設(仮称)、二の丸復元建物、天守)の展示構成等をどのように考えるか。

### ○ 三の丸展示収蔵施設(仮称)の機能等について

広島城三の丸に新たな展示収蔵施設を整備することとしていることから、導入機能や施設運営に当たっての官民の役割分担等をどのように考えるか。

# 事業全体の実施方針

## ○ 事業全体のテーマ設定

〔これまでの検討経緯〕

### ① 広島市博物館基本構想(昭和58年3月)

広島城という個性に着目し、武家文化の関係資料を扱うこととし、(中略)昭和64年の築城400年に向けて、集中的な整備、再編をはかる。

### ② 広島城天守閣リニューアル(平成元年4月)

広島城築城400年の際に、自然史系の資料を外し、広島の武家文化を中心とした歴史資料を専門に扱う博物館として展示リニューアルを実施した。同時に「広島城郷土館」から「広島城」に改称した。

### ③ 広島城条例(平成元年4月改正施行)

第3条 広島城は、次に掲げる事業を行う。

(1) 武家文化を中心とした郷土の歴史に関する実物、文献、写真等の資料の収集、保管、展示及び供用

# 事業全体の実施方針

## ○ 事業全体のテーマ設定

〔これまでの検討経緯〕

### ④ 広島城基本構想(令和2年5月策定)

#### 2-3 各エリアに関する基本的な考え方(コンセプト)

(1)(前略)天守閣と二の丸復元建物で、役割分担を図りつつ、「歴史」と「城」の2大テーマに基づく魅力発信を図っていく。

(3)③本丸・二の丸・・・広島城ならではの重層的な「歴史」を体感できる場

### ⑤ 令和2年度第4回「広島城のあり方に関する懇談会」意見(令和3年3月)

#### ○天守閣の木造復元

・(前略)現天守閣について、最終的に木造復元を目指す場合に、それに関わる利点は色々なものがあるものの、天守閣からは展示収蔵機能がなくなるため、三の丸に展示収蔵施設を設けていただくように方向性がついた。

#### ○展示収蔵施設の整備

・三の丸展示収蔵施設が取り扱うべき主なテーマは、広島城の歴史と城下町の文化(武家文化と町人の文化)に特化してはどうか。

# 事業全体の実施方針

## ○ 事業全体のテーマ設定

前掲①～⑤を踏まえ、次の二つのテーマの下で各種事業(収集保存事業、調査研究事業、展示事業、教育普及事業、交流サービス事業)を推進してはどうか。

テーマ①: 近世の広島歴史・文化

テーマ②: 重層的な広島城の歴史  
(中世から現代に至るまでの歴史)

# 事業全体の実施方針

## ○ 各エリアの役割及び機能

事業全体のテーマ、「広島城基本構想」で掲げた各エリアの基本的な考え方(コンセプト)及びその後の検討状況を踏まえ、各エリアの役割及び機能を以下のように考えてはどうか。

### ● 三の丸エリア

- 近世の広島歴史・文化の発信の中心的な役割を担う空間

### ● 二の丸エリア

- 城の役割・機能を体感的に学び、伝統文化に触れることができる空間

### ● 本丸エリア

- 広島城の重層的な歴史を体感的に学ぶことができる空間

# 事業全体の実施方針

## ○ 事業推進に当たっての観点

効果的に各種事業を推進する上では、以下のような観点を持つことが重要ではないか。

- 調査研究機能の充実（深く学ぶことができる）
- 魅力的な展示コンテンツの創出、効果的な発信
- 体験や体感を積極的に活用した事業展開
- 誰もが楽しむことができる事業展開
- リピーターの獲得につながるような事業展開
- 城内回遊ルートの設定、周辺エリアとの連携
- 本市財政負担の軽減（民間のノウハウ導入等）

# 展示事業の基本的な考え方

事業全体の進め方を踏まえ、「展示の目指す姿」及び「展示方針」を以下のとおり設定し、事業を進めてはどうか。

## ○ 展示の目指す姿

- 来訪者が広島歴史・文化を、体感的に学ぶとともに、深く学ぶことができる展示
- 広島市民の被爆以前の歴史・文化に対する関心を高める展示
- 国内外からの来訪者の多様な期待に応えることができる展示

## ○ 展示方針

- 一体的な展示構成
  - 実物資料を優先し、様々な手法を組み合わせた、最大の効果を得られる展示
  - 周年事業など時期を捉えた話題性のある展示
  - 様々な「人」に着目した展示
  - 歴史の連続性を意識した展示
  - 諸分野における研究成果に基づく多角的な展示
- ⇒ 「展示の目指す姿」と「展示方針」のイメージは、次ページのとおり。

# 展示事業の基本的な考え方

## ○ 展示方針と展示の目指す姿のイメージ

展示方針

展示の目指す姿

本丸      二の丸      三の丸      市民      県民      観光客(国内・国外)

- 一体的な展示構成
- 実物資料を優先し、様々な手法を組み合わせ、最大の効果を得られる展示
- 周年事業など時期を捉えた話題性のある展示
- 様々な「人」に着目した展示
- 歴史の連続性を意識した展示
- 諸分野における研究成果に基づく多角的な展示

体感的に学ぶことができる展示

市民の関心を高める展示

市民

被爆以前の広島をもっと知りたい

来訪者の多様な期待に応える展示

(例)

歴史好き

広島城を切り口に日本の歴史を再確認したい

観光客

広島ならではの本物に触れたい

城好き

広島城を詳しく知りたい

深く学ぶことができる展示

# 展示事業の基本的な考え方

## ○ 展示構成

### ● 三の丸（三の丸展示収蔵施設（仮称））

#### <常設展示>

- ・主な展示テーマは、「近世の広島歴史・文化」とする。
- ・広島城築城に至るまでの歴史や、広島近現代史も扱い、歴史の連続性を感じさせる展示とする。
- ・刀剣・甲冑や美術工芸品などについては、専用のエリアを設けて展示する。

#### <企画展示>

- ・常設展示を補完又は充実しつつ、集客の起爆剤となるような展示を行う。
- ・広島歴史・文化や城郭の一つの分野に特化し、深く掘り下げた展示を行う。
- ・国宝や重要文化財など貴重な資料を含んだ巡回展示を行う。

# 展示事業の基本的な考え方

## ○ 展示構成

### ● 二の丸（二の丸復元建物）

#### <常設展示>

- ・主な展示テーマは、「城の役割・機能の体感」とする。
- ・桃山期の城郭建築としての構造的な特徴や防御面での工夫を体感できる展示とする。
- ・古代から近代までの城郭の歴史を概観しつつ、広島城の構造的・機能的な特徴を紹介するパネル展示を実施する。
- ・展示に当たっては、城郭建築が醸し出す雰囲気損なわないよう留意する。

#### <企画展示>

- ・実施しない。二の丸復元建物に特化したテーマの企画展についても、三の丸展示収蔵施設（仮称）で行う。

# 展示事業の基本的な考え方

## ○ 展示構成

### ● 本丸

#### 1 天守閣(木造復元天守を想定する場合)

##### <常設展示>

- ・木造復元天守という城郭建築そのものを鑑賞し、桃山期の天守としての構造的な特徴や防御面での工夫を理解できる展示とする。
- ・展示内容は、実物展示を中心とするのではなく、天守に対する理解を促進するための写真パネルや解説パネルとする。
- ・展示に当たっては、城郭建築が醸し出す雰囲気損なわないよう留意する。

##### <企画展示>

- ・実施しない。天守に特化したテーマの企画展についても、三の丸展示収蔵施設(仮称)で行う。

# 展示事業の基本的な考え方

## ○ 展示構成

### ● 本丸

#### 2 本丸用地(天守閣を除く。)

＜VR・AR等の技術の活用＞

- 主なテーマは「広島城の重層的な歴史の体感」とする。
- 外観復元された現天守閣、刻印がみられる石垣、福島正則が取り壊したといわれる崩れかけた石垣、広島大本営跡、中国軍管区司令部防空作戦室跡などの既存のコンテンツに加え、VR・AR等の技術の活用により、東・南小天守を含む複連結式の天守群や中御門等を再現するなどして、異なる時代の歴史を体感してもらえるようにする。

#### 【参考】

- VR (Virtual Reality: 仮想現実)  
コンピュータ上にCG等で人工的な環境を作り出し、あたかもそこにいるかのような感覚を体験できる技術
- AR (Augmented Reality: 拡張現実)  
現実の風景にコンピュータで生成した情報を重ね合わせて表示する技術

# 三の丸展示収蔵施設（仮称）の機能等

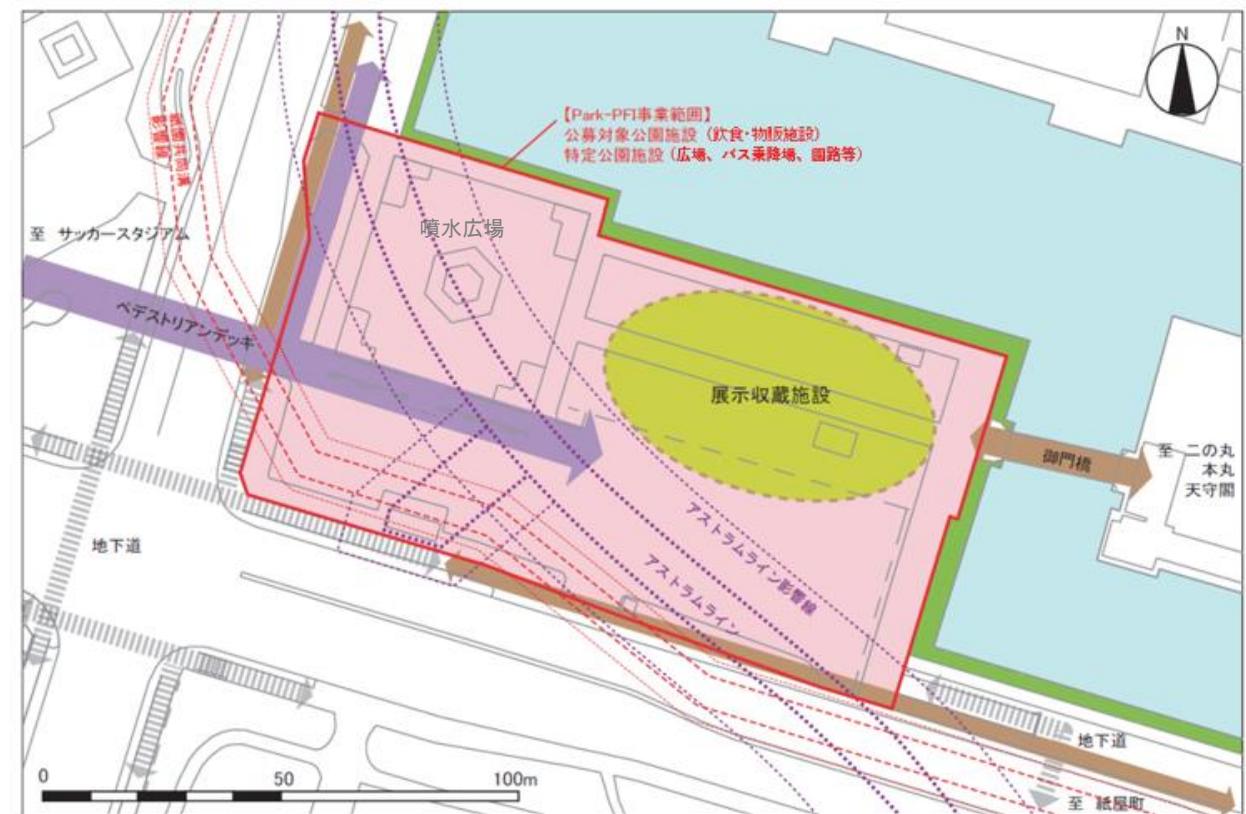
## ○ 施設配置計画

広島城三の丸整備基本計画のとおり、展示収蔵施設の配置に当たっての基本的な考え方及びゾーニングのイメージを、以下のとおりとしてはいかがでしょうか。

＜ゾーニングのイメージ＞

＜基本的な考え方＞

現天守閣の展示収蔵機能の移設・拡充にも対応できる充実した規模及び内容を備えた施設とするため、建物の荷重による地下のアストラムラインへの影響が少ない位置に配置する。



## 【施設配置の留意事項】

- ・ アストラムライン、地下河川（噴水広場東側）等に影響を及ぼさない地上部利用や近接工事の配慮
- ・ ペDESTリアンデッキ（今後整備予定）の位置との調整
- ・ 御門橋や堀からの一定の距離の確保、高さへの配慮（景観や眺望に配慮した空間形成）

# 三の丸展示収蔵施設（仮称）の機能等

## ○ 導入機能

現天守閣の現状と課題等を踏まえ、以下の機能を導入してはどうか。

区分	想定される諸室等	説明	(参考) 現天守閣 の面積
エントランス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受付、チケット販売</li> <li>・総合ガイダンス、体験エリア</li> <li>・観光案内所等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三の丸展示収蔵施設(仮称)、二の丸復元建物及び天守閣の総合ガイダンスやインフォメーション機能、観光案内所の機能等を担う。</li> </ul>	—
収蔵	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般収蔵庫(前室含む)</li> <li>・特別収蔵庫(前室含む)</li> <li>・荷解き室</li> <li>・搬入ヤード等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵の充実を図るため、現行よりも収蔵面積を拡充</li> <li>・本市の収蔵資料や寄託資料を収蔵するため、収蔵環境に優れた特別収蔵庫も想定</li> </ul>	90m <sup>2</sup>
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究室</li> <li>・図書資料室等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵資料や展示開催・更新に伴う調査研究、準備、資料管理や作業スペースの役割を担う。</li> </ul>	28m <sup>2</sup>
展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示室</li> <li>・企画展示室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示の充実を図るため、現行よりも展示面積を拡充</li> <li>・本市の収蔵資料だけでなく、貴重な資料を借用し、展示を企画することも想定</li> </ul>	997m <sup>2</sup>
教育普及 (学習・交流)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的室</li> <li>・図書閲覧室等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民向け各種普及事業(講演会・講座)、生涯学習やボランティア等の学習・交流活動の場としての役割を担う。</li> </ul>	—
管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務室</li> <li>・会議室等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島城一帯の管理事務所を併設</li> </ul>	46m <sup>2</sup>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械室、電気室、共用部</li> </ul>		198m <sup>2</sup>
合計			1,359m <sup>2</sup>

※ 広島城三の丸整備基本計画で示した導入機能例を一部修正

# 三の丸展示収蔵施設（仮称）の機能等

## ○ 官民の役割分担

学芸業務の専門性を確保しつつ、民間活力を最大限に生かすという観点から、以下のような役割分担が考えられないか。

区分	業務内容	役割分担		備考
		学芸事業者	民間事業者	
三の丸展示収蔵施設（仮称） 運営業務	受付・案内業務		○	
	ミュージアムショップの運営		○	
	収集保存業務	○		
	調査研究業務	○		
	展示業務	○	(○)	民間事業者のノウハウを活用した方が、より効果的な事業展開が期待できると考えられる業務については、民間事業者が中心となって実施することを想定
	教育普及業務	○	(○)	
	交流サービス業務	○	(○)	
本丸・二の丸に係る運営業務		○	○	三の丸の役割分担に準ずる

# ＜参考事例＞

# 他都市の展示収蔵施設

事例1： 岐阜関ヶ原古戦場記念館

事例2： 高知県立高知城歴史博物館

事例3： 神戸市立博物館

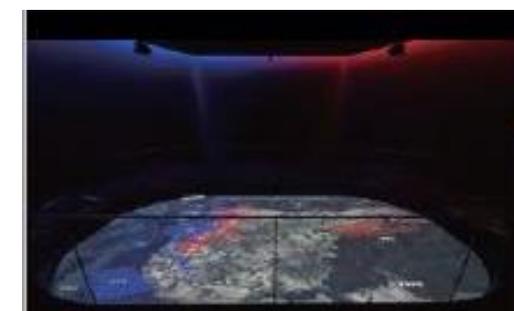
事例4： 松江市立松江歴史館

事例5： 下関市立歴史博物館

関ヶ原古戦場を中心とする岐阜県下の戦国観光の周遊拠点。  
 高いエンターテインメント性と高度な展示収蔵機能の両立で、歴史に興味を持たない観光客にも解りやすく引き込む。  
 ミュージアムショップ・カフェも充実。

施設名	岐阜関ヶ原古戦場記念館				
設置者	岐阜県	所在地	岐阜県不破郡関ヶ原町関ヶ原894-55		
開館年	2020年10月	施設規模	展示面積1,554㎡	観覧料	有料(高校生以上)
施設概要	420年前にこの地で起きた「関ヶ原の戦い」を体感し、誰にでも解りやすく伝える古戦場めぐりの拠点として、遠くからでもわざわざ来なくなる「圧倒的な存在感」を放つ施設を目指し整備されました。グラウンドビジョンで戦いの経緯を解りやすく紹介した後、続く大画面オーバルスクリーンのシアターでは迫力と没入感のある戦いを体感することができます。また、常設展示室の他、どなたでも楽しむことのできる体験コーナー、館内で学んだ戦いの場が眼前に広がる眺望室も設け、古戦場周遊のきっかけを提供しています。				
展示構成	【グラウンドビジョン、シアター】関ヶ原の戦いにいたるまでの流れとその規模の大きさ、関ヶ原の戦い 【展示室（常設/企画）】戦国時代からその後まで 【戦国体験コーナー】戦国武将なりきり体験 【展望台】関ヶ原古戦場のパノラマビュー 【広域観光情報コーナー】古戦場や岐阜県周遊のための情報				

常設展示/企画展示



1 グラウンドビジョン

巨大な床面スクリーンで全国を舞台とした東西陣営のスケールの大きな戦いを俯瞰できます。(約8分)



2 シアター

縦4.5m、横13mの楕円型スクリーンで大軍団の激突が展開される大迫力映像。風や振動、光と音の演出により、あたかも合戦当日の関ヶ原にまぎれ込んだかのようなリアルな体験ができます。(約9分)



3 展示室（常設/企画）

当時の様子を窺い知ることができる武器や武具、古文書・地図などを展示しています。1階でのバーチャルな体験をより広く深い理解へと導きます。



4 戦国体験コーナー

武具を実際に触ってみたい、関ヶ原合戦屏風を背景にした写真撮影などもできます。



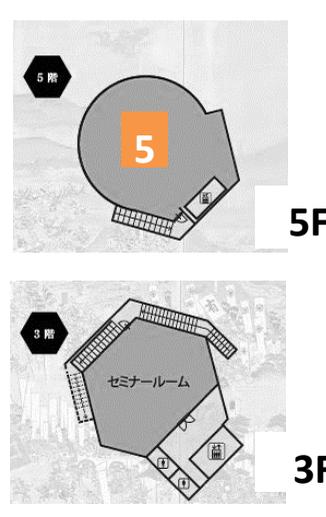
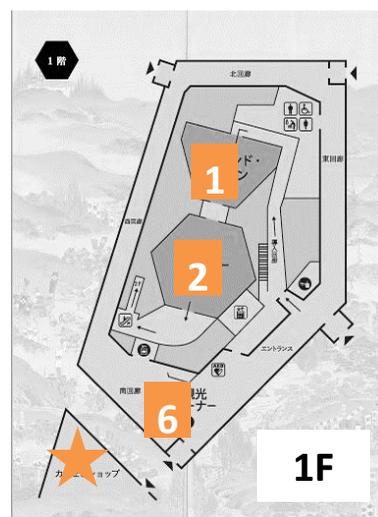
5 展望台

最上階からは、関ヶ原古戦場全体を見渡し、1階と2階で体感した、臨場感を重ね合わせることができます。



6 広域観光情報コーナー

古戦場めぐりの総合案内が置かれ、史跡ガイドやレンタサイクルの申し込みができます。また、県の観光情報を紹介しています。



ショップ/カフェ（別館）



記念館に隣接した、岐阜県産品と戦国・歴史グッズを販売する施設です。岐阜県産品には「関の刃物」「美濃の和紙」など歴史に培われた伝統と文化、高いモノづくり技術に裏打ちされた品質があります。また、「ここでしか買えない」岐阜関ヶ原古戦場記念館オリジナルのグッズを200種以上揃えています。



関ヶ原の戦いに参戦した武将をイメージしたオリジナルメニューをはじめ、地元の方々が日常的に利用していただける一般的なメニューを提供しています。

山内家の大名道具を中心とする充実した資料を展示。  
 特別展示はもちろん、常設展示も展示更新が行えることで、常に違った「ホンモノ」に接することができる。  
 高知城天守を望む堀沿いに立地。充実した観光情報の提供でまち巡りの起点としても機能。

施設名	高知県立高知城歴史博物館				
設置者	高知県	所在地	高知県高知市追手筋2-7-5		
開館年	2017年	施設規模	展示面積797㎡	観覧料	有料(18歳以上)
施設概要	土佐藩山内家及び高知県ゆかりの資料を守り、伝えることを目的として高知城のふもとに開館しました。一括して残る大名家資料の山内家資料群は、歴史資料や美術工芸品を中心に、国宝や重要文化財を含め、約6万7千点に及びます。そのような資料の特性から、博物館でありながら美術館的要素を併せ持つ館内で、それら本物の資料に出会える感動や知る喜びを存分に感じられるよう、鑑賞環境を最優先しながらも、「武家」のたたずまいを感じる空間を構築しています。				
展示構成	【情報コーナー】城下町や高知県周遊のための情報 【導入展示】古代から現代までの大年表と土佐の絵地図 【総合展示】土佐藩の歴史、高知城のしくみ、大名道具の世界、江戸時代の美術と文化（60日を目安に資料を全点入れ替え） 【特別展示】テーマ例：地域展 仁淀川、大名墓をめぐる世界 そのすべて 【体験コーナー】戦国武将なりきり体験 【土佐史探索室】プログラム例：春風亭昇太高知城を攻める、山内家伝来の品々～ほんものを守り伝える～、美への扉を開く～国宝・重要文化財鑑賞入門～ 【展望ロビー】高知城のパノラマビュー				

常設展示



1 城下町情報コーナー

かつて城下町としてさかえた高知市中心部の歴史や史跡、見どころを映像と情報端末で紹介しています。散策マップを手に城下町散策へと誘います。



2 高知県情報コーナー

高知県内各地域の歴史文化の魅力と情報を紹介しています。映像の上映、イベント情報マップ、情報端末に加えて、各地域のパンフレットなども備えています。



3 導入展示室

古代から現代までの大年表と土佐国の絵地図にかこまれた展示室への入り口です。



4 総合展示室 I 通史展示 (土佐藩の歴史)

江戸時代の土佐藩、高知県を概観します。模型やデジタルコンテンツで高知城の見どころもわかりやすくご紹介しています。



5 総合展示室 II テーマ展示 (江戸時代の美術と文化)

甲冑や刀剣、能面、茶道具などの大名道具の世界、土佐の学者や文人の著作・書画などの土佐の文化をご紹介します。



6 体験コーナー

体験用の兜や陣羽織などを身につけることができます。お城をバックに記念撮影もできます。



8 土佐史探索室

土佐の歴史や高知城の魅力を紹介する5つの映像を、大型スクリーンや一人用の端末で見ることができます。



9 高知城展望ロビー

美しい高知城と追手門の姿、さらに山内一豊の姿を大パノラマで一望できます。

企画展示

7 特別展示室

季節ごとに時代やジャンル・テーマ設定を変え、様々な企画展を開催しています。

ショップ/カフェ



図録・パンフレットなどの書籍や収蔵資料をモチーフにしたオリジナルグッズ、県産品グッズ等を中心に、博物館ならではの商品を販売しています。



アンティーク風の落ち着いた店内からは高知城を眺めることができます。こだわりのコーヒーをはじめ、軽食、デザート、ドリンクをご提供しています。

「まちに開かれたミュージアム」を目指して大改修。

1階の展示室やカフェなどは無料開放し、気軽に立ち寄れるミュージアムに変身。

2・3階はこれまでの数多くの企画展実績をより一層充実させ、可変性の高い展示室を構築。

施設名	神戸市立博物館				
設置者	神戸市	所在地	兵庫県神戸市中央区京町24番地		
開館年	1982年 (2019年リニューアル)	施設規模	展示面積3,065㎡	観覧料	1F/無料 2F/有料(大学生以上)
施設概要	ブランドショップやカフェが立ち並び、観光客や買物客で賑わう旧居留地に位置する「神戸市立博物館」。建物は、国登録有形文化財（建造物）として登録されている歴史的建造物で、昭和初期の名建築と言われています。こうした立地・建物特性に対し、“まちに開かれたミュージアム”というコンセプトのもと、文化交流および文化発信機能を充実させるため、昭和57年（1982年）の開館以来初となる常設展示の全面リニューアルを行いました。				
展示構成	<p>【神戸の歴史展示】神戸の通史 神戸の海・港を介して産まれた人や文化の交流の実態と、それが歴史に与えた影響</p> <p>【コレクション展示】国宝「桜ヶ丘銅鐸・銅戈」、重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」、「美術」「びいどろ・ぎやまん・ガラス」「古地図」「考古・歴史」の各分野では、期間ごとにさまざまなテーマで展示</p> <p>【特別展示】テーマ例：神戸源平巡りー『平家物語』の舞台を訪ねてー、日本を歩いて測った男 伊能忠敬</p> <p>【地域文化財展示】テーマ例：旧居留地と近代建築、神戸の平家物語</p> <p>【情報コーナー】映像ライブラリ、神戸の歴史マップ、コレクション検索、描かれた神戸、写された神戸</p>				

常設展示/企画展示



1 神戸の歴史展示室

神戸の街に面する1階を無料開放のゾーンとすることで、街の賑わいを取り込んで施設の利用を促すと同時に神戸の通史を紹介することで、街とミュージアムが相互に作用する場を築いています。



2 コレクション展示室

有料の2階展示室では、これまでの常設展示では一部しか公開できなかった国宝を含む国内有数の貴重なコレクションを、最新の展示設備と手法で精緻に展示しています。わかりやすく伝えるとともに、見応えのある展示空間となっています。



1F



2F



3F

3 特別展示室1

企画展や特別展を開催しています。

4 特別展示室2

企画展や特別展を開催しています。



5 地域文化財展示室

定期的にテーマを変えながら、神戸の歴史を語る上で欠かせない資料を展示しています。



6 情報コーナー

厳選された書籍を配架するとともに、3台のタッチパネル式PCにより、ここならではの情報コンテンツを利用することができます。



7 体験学習室

自由に触れて楽しく学べるツールがあり、「作る」「体験」するワークショップも開催しています。

ショップ/カフェ



カフェの特別室は、リニューアル前に展示資料として扱われていた照明や家具などで明治時代の異人館「トムセン邸」を復元した、ミュージアムならではの空間です。



モダンな意匠で生まれ変わったミュージアムショップとカフェ。昭和初期の建築を活かした空間のなかで、蔵書を自由に読むこともできます。

ゾーニングは、誰にでも解りやすく松江の歴史を概観できる「概覧展示」と、各テーマを深掘りした「詳覧展示」で構成。見学者それぞれの興味に応じてじっくりと資料に接することができる。建築は武家屋敷をモチーフとした本格的な和建築。

施設名	松江市立松江歴史館				
設置者	松江市	所在地	島根県松江市殿町279番地		
開館年	2011年	施設規模	展示面積1,042㎡	観覧料	有料(小学生以上)
施設概要	松江開府400年を記念して松江城近隣に整備された歴史資料館です。映像・模型等を駆使して城下町の形成をわかりやすく解説した「概覧展示」、松江に花開いた文化・産業等について実物資料を中心に紹介する「詳覧展示」により、今日の観光都市・松江の礎となった近世の城下町の姿を生き生きと伝えています。中心的機能を担う観光施設として、また市民の憩い・学習の場として、まちづくりの新たな拠点となることをめざしています。				
展示構成	【基本展示】近世を中心とした城下町松江の歴史・文化 【企画展示】テーマ例：松江藩と絵図ー花開いた地図の世界ー、戦国の世を馳せた武将 堀尾吉晴、松平不味一茶のころ				

常設展示

1 基本展示室

松江藩政や城下町の形成、城下の人々の暮らし、藩財政を支え松江を全国有数の富裕藩にした産業などを紹介します。大きなゾーニングとしては、中央部の「概覧展示」と周囲の「詳細展示」に分かれ、実物資料を展示するほか、映像や音声を使ってわかりやすく紹介しています。

概覧展示

各テーマの中から特徴的な内容を取り出し、模型や映像などの訴求力の高い手法を使用する



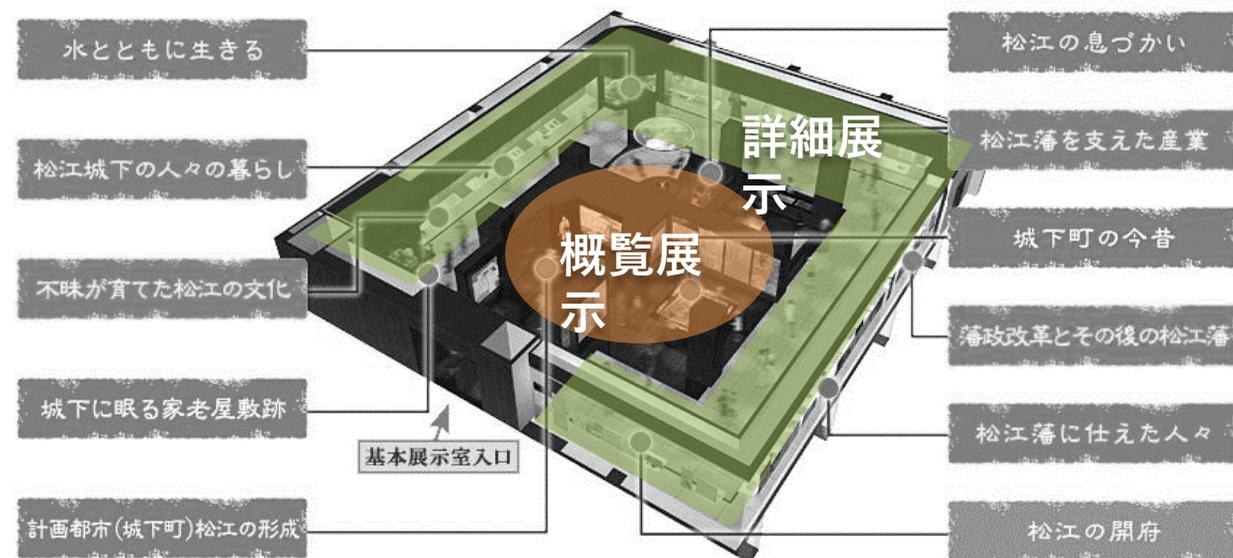
松江城下の模型

詳細展示

展示テーマに沿った実物資料など、専門家の鑑賞にも堪えるしっかりとした資料を中心に構成する。



壁面ケース展示



企画展示

2 企画展示室

年間を通して、松江をより深く知ることができる企画展、テーマ展を開催しています。



ショップ/カフェ



図録や松江の歴史や文化に関する各種出版物を販売するほか、地元作家を中心に仕入れた和小物や和雑貨、松江ならではの「茶の湯の文化」を感じる銘茶や、特選和菓子、当店オリジナルブランド「えにしずく」関連グッズなどを販売しています。



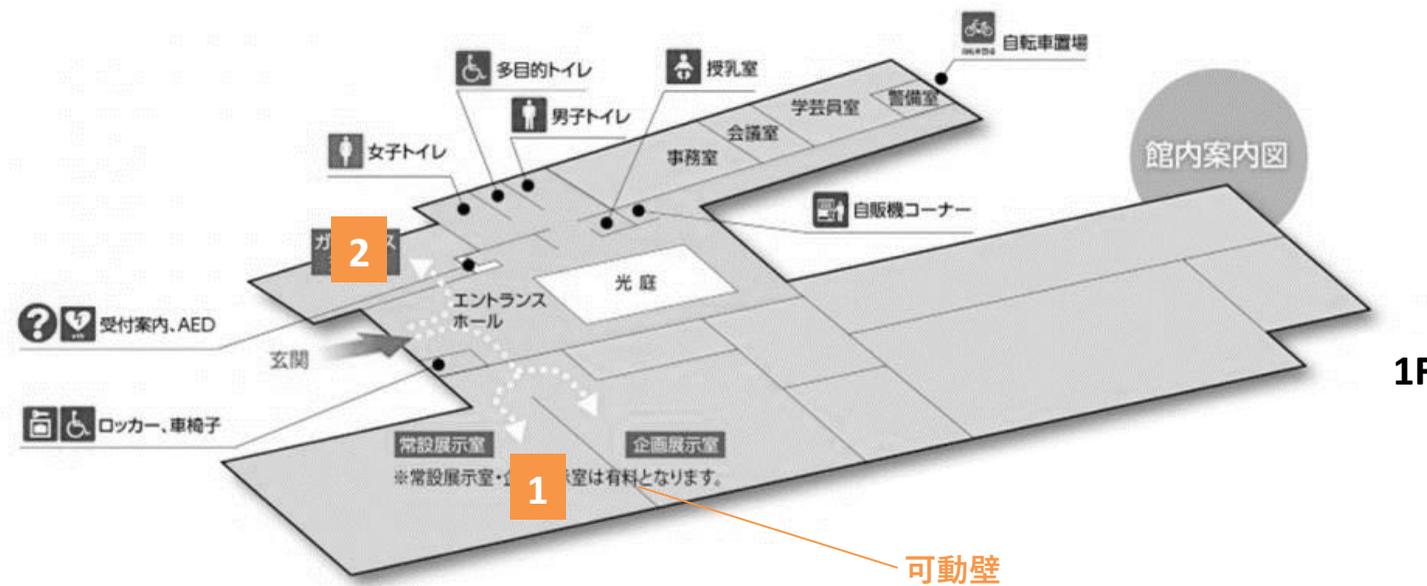
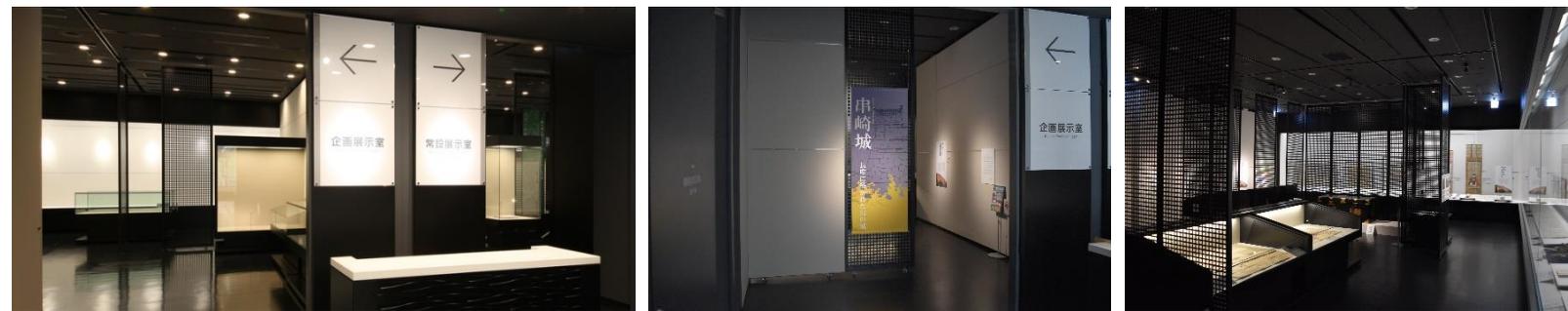
上生菓子と、干菓子を楽しむセットメニューや、各種甘味、コーヒーなどを提供しています。席では、松江城を望みながらお茶を楽しめます。晴れた日には、喫茶前の濡れ縁に、畳を敷き、和のオープンカフェも開設しています。

施設名	下関市立歴史博物館				
設置者	下関市	所在地	山口県下関市長府川端2-2-27		
開館年	2016年	施設規模	展示面積483㎡	観覧料	ガイドンス交流室/無料 常設・企画展示室/有料(19歳以上)
施設概要	下関と周辺地域にかかわる歴史資料の収集・調査研究および展示活動を行っていた旧長府博物館が老朽化したことを受けて新築された博物館。「海峡に育まれた下関の歴史と文化」をテーマとし、長府毛利家遺品のほか、高杉晋作・坂本龍馬など幕末に活躍した偉人たちの書状、愛用品など江戸・幕末維新期の展示を中心に展開しています。坂本龍馬資料の収蔵数は日本一を誇ります。また、下関市内の文化財や観光等の情報を提供するガイドンス交流室展示や、下関に関する特定のテーマを抽出した特別展示なども行います。				
展示構成	【常設展示】近世と幕末維新を中心に下関の歴史を古代から現代に分けて紹介 【企画展示】テーマ例：特別展 海峡に魅せられた幕末の英傑、企画展 串崎城ー長府に築かれた幻の城 【ガイドンス交流展示】周辺情報の見どころやイベント、年表				

常設展示/企画展示

1 常設/企画展示室

可動型の仕器や2種類の可動間仕切りを用いることで、フレキシブルな展示が行えます。常設展示室と企画展示室が一体になっているため、企画展開催時には、そのボリュームに合わせて展示規模を調整することも可能です。



2 ガイドンス交流展示室

周辺情報や年表、博物館が収蔵する資料の情報を検索する機器があります。また、市内各施設の情報、イベント、見所などの基本情報を閲覧することもできます。スクリーンを用いて講座なども行われています。

